(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2015 年 1 月 15 日(15.01.2015)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2015/005146 A1

(51) 国際特許分類:
G06F 3/0482 (2013.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2014/067240

(22) 国際出願日: 2014 年 6 月 27 日(27.06.2014)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
61/845,626 2013 年 7 月 12 日(12.07.2013) US

(71) 出願人: ソニー株式会社(SONY CORPORATION) [JP/JP]; 〒1080075 東京都港区港南１丁目７番１号 Tokyo (JP). ソニー エレクトロニクス インク (SONY ELECTRONICS INC.) [US/US]; 07656 ニュージャージー州パークリッジ ソニー ドライブ １ Jersey (US).

(72) 発明者: 辻 朋広(TSUJI, Tomohiro); 〒1080075 東京都港区港南１丁目７番１号 ソニー株式会社内 Tokyo (JP). 猪狩 一真(IGARI, Kazuma); 〒1410022 東京都品川区東五反田２丁目２１番２８号 ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社内 Tokyo (JP). 鈴木 克広(SUZUKI, Katsuhiro); 〒1080075 東京都港区港南１丁目７番１号 ソニー株式会社内 Tokyo (JP). 尾崎 史享(OZAKI, Fumitaka); 〒1080075 東京都港区港南１丁目７番１号 ソニー株式会社内 Tokyo (JP). 山本 剛(YAMAMOTO, Tsuyoshi); 〒1410022 東京都品川区東五反田２丁目２１番２８号 ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社内 Tokyo (JP). チェイニー アリソン マーリーン(CHANEY, Allison Marlene); 92127 カリフォルニア州サンディエゴ ヴィア エスプリッロ １６５３０ ソニー エレクトロニクス インク内 California (US). フラメル ジュリア アン(FRAMEL, Julia Anne); 92127 カリフォルニア州サンディエゴ ヴィア エスプリッロ １６５３０ ソニー エレクトロニクス インク内 California (US).

(74) 代理人: 亀谷 美明, 外(KAMEYA, Yoshiaki et al.); 〒1600004 東京都新宿区四谷３－１－３ 第一冨澤ビル はづき国際特許事務所 四谷オフィス Tokyo (JP).

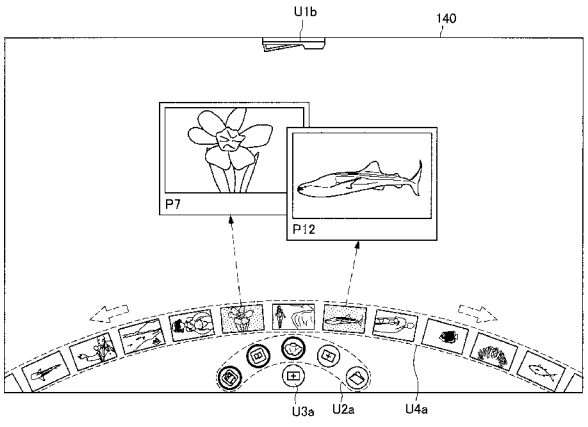
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN,

[続葉有]

(54) **Title**: INFORMATION PROCESSING DEVICE, INFORMATION PROCESSING METHOD, AND COMPUTER PROGRAM

(54) 発明の名称 : 情報処理装置、情報処理方法及びコンピュータプログラム

[図6]



(57) **Abstract**: Provided is an information processing device whereby a plurality of users can efficiently use content on the same screen. The information processing device is provided with a manipulation detection unit for detecting a user's manipulation and a control unit for controlling a display on a screen in response to the detection by the manipulation detection unit, wherein the control unit performs control so that: when the manipulation detection unit has detected a first manipulation extending from each of at least two sides of the screen toward the center of the screen, a first menu for selecting a content source is displayed along each side of the screen; when the manipulation detection unit has detected a second manipulation on the first menu, a second menu for selecting a content is displayed outside the first menu; and when the manipulation detection unit has detected a third manipulation on the second menu, the content selected by the third manipulation is displayed on the screen.

(57) 要約:

[続葉有]

WO 2015/005146 A1

IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

複数のユーザが同一の画面上で効率よくコンテンツを利用することが可能な情報処理装置を提供する。ユーザによる操作を検出する操作検出部と、前記操作検出部の検出に応じて画面への表示を制御する制御部と、を備え、前記制御部は、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた第一の操作を前記操作検出部が検出すると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、前記第一のメニューへの第二の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、前記第二のメニューへの第三の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する制御を行なう。

明　細　書

発明の名称 ：

情報処理装置、情報処理方法及びコンピュータプログラム

技術分野

[0001] 本開示は、情報処理装置、情報処理方法及びコンピュータプログラムに関する。

背景技術

[0002] 画面にタッチパネルを備えた高機能携帯電話（スマートフォンとも称する）やタブレット型の携帯端末（単にタブレット端末とも称する）の普及が進んでいる。このような装置はユーザに指やスタイラスペンなどで画面を直接操作させることを前提としているので、直感的な操作をユーザに提供することができる（例えば特許文献１など参照）。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２０１３－１０５３９５号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 近年では、そのような画面にタッチパネルを備えた機器の大画面化が進み、一人だけではなく、複数のユーザが同時に画面を触って操作するケースが増えてきている。上記事情に鑑みれば、複数のユーザが同一の画面上で効率よくコンテンツ（画像データ、映像データ、楽曲データ、文書データ、Ｗｅｂページをクリッピングしたデータその他のデータを言うものとする）を利用できるようにすることが求められる。

[0005] そこで、本開示は、複数のユーザが同一の画面上で効率よくコンテンツを利用することが可能な、新規かつ改良された情報処理装置、情報処理方法及びコンピュータプログラムを提供する。

課題を解決するための手段

[0006] 本開示によれば、ユーザによる操作を検出する操作検出部と、前記操作検出部の検出に応じて画面への表示を制御する制御部と、を備え、前記制御部は、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた第一の操作を前記操作検出部が検出すると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、前記第一のメニューへの第二の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、前記第二のメニューへの第三の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する制御を行なう、情報処理装置が提供される。

[0007] また本開示によれば、ユーザによる操作を検出するステップと、前記検出するステップの検出に応じて画面への表示を制御するステップと、を備え、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた操作が前記検出するステップで検出されると、前記表示を制御するステップは、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、前記第一のメニューへの第二の操作が前記検出するステップで検出されると、前記表示を制御するステップは、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、前記第二のメニューへの第三の操作が前記検出するステップで検出されると、前記表示を制御するステップは、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する、情報処理方法が提供される。

[0008] また本開示によれば、コンピュータに、ユーザによる操作を検出するステップと、前記検出するステップの検出に応じて画面への表示を制御するステップと、を実行させ、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた操作が前記検出するステップで検出されると、前記表示を制御するステップは、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、前記第一のメニューへの第

二の操作が前記検出するステップで検出されると、前記表示を制御するステップは、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、前記第二のメニューへの第三の操作が前記検出するステップで検出されると、前記表示を制御するステップは、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する、コンピュータプログラムが提供される。

発明の効果

[0009] 以上説明したように本開示によれば、複数のユーザが同一の画面上で効率よくコンテンツを利用することが可能な、新規かつ改良された情報処理装置、情報処理方法及びコンピュータプログラムを提供することができる。

図面の簡単な説明

[0010] [図1]本開示の一実施形態に係る情報処理装置１００の機能構成例を示す説明図である。

[図2]本開示の一実施形態に係る情報処理装置１００の動作例を示す説明図である。

[図3]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図4A]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図4B]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図4C]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図5]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図6]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図7]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図8]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図9]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図10]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図11]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図12]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図13]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図14]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図15]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図16]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図17]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図18]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図19]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図20]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図21]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図22]ユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[図23]ハードウェア構成例を示す説明図である。

発明を実施するための形態

[0011] 以下に添付図面を参照しながら、本開示の好適な実施の形態について詳細に説明する。なお、本明細書及び図面において、実質的に同一の機能構成を有する構成要素については、同一の符号を付することにより重複説明を省略する。

[0012] なお、説明は以下の順序で行うものとする。

＜１．本開示の一実施形態＞

［情報処理装置の機能構成例］

［情報処理装置の動作例］

［情報処理装置が表示するユーザインタフェースの例］

＜２．ハードウェア構成例＞

＜３．まとめ＞

[0013] ＜１．本開示の一実施形態＞

［情報処理装置の機能構成例］

まず、図面を参照しながら本開示の一実施形態に係る表示装置の機能構成例について説明する。図１は、本開示の一実施形態に係る情報処理装置１００の機能構成例を示す説明図である。以下、図１を用いて本開示の一実施形態に係る情報処理装置１００の機能構成例について説明する。

[0014] 図１に示した本開示の一実施形態に係る情報処理装置１００は、例えばスマートフォンやタブレット端末、ゲーム機等のような、ユーザに画面を指等で触らせることで操作を受け付けるよう構成されたものである。図１に示したように、本開示の一実施形態に係る情報処理装置１００は、操作部１１０と、操作検出部１２０と、制御部１３０と、表示部１４０と、記憶部１５０と、通信部１６０と、を含んで構成される。

[0015] 操作部１１０は、ユーザによる情報処理装置１００に対する操作を受け付ける。本実施形態においては、操作部１１０には、表示部１４０の表面に、または表示部１４０に一体となって設けられるタッチパネルが用いられても良い。また操作部１１０には、表示部１４０の表面に、または表示部１４０に一体となって設けられるタッチパネルに加えて、ハードキーやボタンが用いられても良い。操作部１１０に対して行われたユーザの操作は、操作検出部１２０で検出される。

[0016] タッチパネルとしては、例えば、静電容量式タッチパネルや抵抗膜式タッチパネルを採用することができる。静電容量式タッチパネルは、表示部１４０の表示画面上に導電膜が設けられることにより形成される。静電容量式タッチパネルは、ユーザの指によるタッチ操作がなされると、その指先と導電膜との間で生ずる静電容量の変化に基づいて、タッチ操作の位置の座標を検出する。

[0017] 抵抗膜式タッチパネルは、表示部１４０の表示画面上において、ＰＥＴ（Ｐｏｌｙｅｔｈｙｌｅｎｅ　ｔｅｒｅｐｈｔｈａｌａｔｅ）のような柔らかい表面膜と、その奥にある液晶ガラス膜が並行に重ねられて形成される。双方の膜は、それぞれ透明な導電膜が貼り込まれており、透明なスペーサを介してそれぞれ電気的に絶縁されている。表面膜とガラス膜とはそれぞれ導体が通っており、指によりタッチ操作がなされると、指による応力により表面膜が湾曲し、表面膜とガラス膜が部分的に導通状態となる。この時、指の接触位置に応じて電気抵抗値や電位が変化する。操作検出部１２０は、このような電気抵抗値や電位の変化が生じた座標に基づいて、当該指の接触、指の

接触本数、及びタッチ操作の種類を検出する。

[0018] 以下の説明では、特に断りが無い限り、操作部１１０は表示部１４０の表面に、または表示部１４０に一体となって設けられるタッチパネルが含まれるものであるとして説明する。

[0019] 操作検出部１２０は、操作部１１０に対して行われたユーザの操作の内容を検出する。例えばユーザが操作部１１０を指で触ったり、また指を一定距離未満に近づけたりすると、操作検出部１２０は、ユーザが指で触ったり、また指を近づけたりした位置の座標、触ったり近づけたりしている位置の変化量、変化の速度、触ったり近づけたりしている点の数等を検出しうる。操作検出部１２０は、操作部１１０に対して行われたユーザの操作の内容を検出すると、その検出の結果を制御部１３０に送る。

[0020] 制御部１３０は、情報処理装置１００に保存されているアプリケーションの実行や、表示部１４０への文字、画像その他の情報の表示を制御する。制御部１３０は、操作検出部１２０から操作部１１０に対して行われたユーザの操作の内容の検出の結果を受け取ると、その検出の結果に基づき、表示部１４０への文字、画像その他の情報の表示を制御する。従って、制御部１３０は、本開示の表示制御部の一例として機能し得る。

[0021] 制御部１３０による表示部１４０への表示の制御例については後に詳述するが、ここで簡単に説明する。情報処理装置１００のユーザが、操作部１１０を用いて、所定のアプリケーションを情報処理装置１００に実行させる操作を実行したとする。情報処理装置１００は、アプリケーションの起動により、当該アプリケーションを操作させるためのメニューを表示部１４０へ表示する。

[0022] 本実施形態では、所定のアプリケーションの一例として、コンテンツ（例えば画像データ、映像データ、楽曲データ、文書データ等のデータ、Ｗｅｂページをクリッピングしたデータ等）を１人または複数のユーザで利用するアプリケーションを挙げる。以下、このアプリケーションのことを「コンテンツ閲覧アプリケーション」とも称する。また、ここでコンテンツを利用す

るとは、コンテンツの表示、再生、変更、保存などを行なうことを言うものとする。

[0023] 表示部１４０は、文字、画像その他の情報を表示する。表示部１４０は、制御部１３０によって文字、画像その他の情報の表示が制御される。表示部１４０には、例えば液晶ディスプレイや有機ＥＬディスプレイ等が用いられ得る。そして上述したように、表示部１４０の表面に、または表示部１４０に一体となってタッチパネルが設けられ得る。

[0024] 記憶部１５０は、様々な情報を記憶する。記憶部１５０が記憶する情報としては、例えば情報処理装置１００に対する設定値、情報処理装置１００で使用される文書データ、画像データ、楽曲データ等がある。記憶部１５０に記憶されている情報は、必要に応じて制御部１３０により読み出され、表示部１４０に表示され得る。また記憶部１５０には、制御部１３０の制御により情報が記憶され得る。

[0025] 通信部１６０は、他の装置との間の通信を行なうインターフェースである。通信部１６０は、制御部１３０によって他の装置との間の通信が制御され得る。例えば、通信部１６０は、制御部１３０の制御により、記憶部１５０に記憶される情報を送信し得る。

[0026] 以上、図１を用いて本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００の機能構成例について説明した。続いて、本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００の動作例について説明する。

[0027] ［情報処理装置の動作例］

図２は、本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００の動作例を示す流れ図である。図２に示したのは、コンテンツ閲覧アプリケーションの起動及びコンテンツ閲覧アプリケーションに対するユーザの操作により表示部１４０に表示される情報が変化することを示す、報処理装置１００の動作例である。以下、図２を用いて本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００の動作例について説明する。

[0028] 情報処理装置１００のユーザが、コンテンツ閲覧アプリケーションを起動

する操作を実行すると、情報処理装置１００は、その操作に応じてコンテンツ閲覧アプリケーションの起動を制御部１３０で実行する（ステップＳ１０１）。なお、このコンテンツ閲覧アプリケーションは、記憶部１５０に予め記憶されていてもよく、通信部１６０がインターネット上のサーバに接続して、ユーザによる起動する操作の都度、当該サーバから取得してもよい。

[0029] 上記ステップＳ１０１でコンテンツ閲覧アプリケーションが情報処理装置１００で起動されると、続いて情報処理装置１００は、画面の縁（表示部１４０の縁）からのユーザによるスワイプ操作、すなわちユーザが画面に触れた状態で指を滑らせる操作を操作検出部１２０が検出するまで待機する（ステップＳ１０２）。画面の縁からのユーザによるスワイプ操作を操作検出部１２０が検出すると、続いて情報処理装置１００は、そのスワイプ操作の検出に基づき、表示部１４０へドロワメニューを表示する処理を制御部１３０で実行する（ステップＳ１０３）。

[0030] このドロワメニューは、コンテンツの保存元を１つまたは複数のアイコンで示すメニューであり、詳細は後述するが、画面の一辺の中点を中心に、アイコンを円弧状に配置したメニューである。ユーザは、このドロワメニューとして表示されたアイコンを選択することで、コンテンツの保存元を選ぶことが可能になる。

[0031] また情報処理装置１００が実行するコンテンツ閲覧アプリケーションは、ドロワメニューを、画面の特定の１つの辺に対するスワイプ操作だけでなく、複数の辺に対するスワイプ操作により表示させることができる。複数の辺に対するスワイプ操作によってドロワメニューを表示することで、情報処理装置１００が実行するコンテンツ閲覧アプリケーションは、複数のユーザにコンテンツを容易に利用させることが出来る。

[0032] 上記ステップＳ１０３でコンテンツ閲覧アプリケーションがドロワメニューを表示すると、続いて情報処理装置１００は、ドロワメニューのアイコンへの操作（アイコンが表示されている位置への指などの接触）を操作検出部１２０が検出するまで待機する（ステップＳ１０４）。

[0033] ドロワメニューのアイコンへの操作（アイコンが表示されている位置へのユーザの指などの接触）を操作検出部１２０が検出すると、情報処理装置１００は、操作されたアイコンに対応する保存元に保存されているコンテンツのサムネイル画像を、ドロワメニューの外側に円弧状に展開して表示部１４０へ表示する処理を制御部１３０で実行する（ステップＳ１０５）。ユーザは、円弧状に展開されたサムネイル画像に対する操作（例えば、ユーザによるサムネイル画像に対するドラッグ・アンド・ドロップ操作）を行なうことにより、コンテンツを利用することができる。

[0034] 本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００は、このようにコンテンツ閲覧アプリケーションを動作させることで、ユーザにコンテンツを容易に利用させることが出来る。

[0035] 以上、本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００の動作例について説明した。続いて、本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００が、コンテンツ閲覧アプリケーションの実行により表示部１４０に表示するユーザインタフェースの例を説明する。

[0036] ［情報処理装置が表示するユーザインタフェースの例］

図３は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図３に示したのは、制御部１３０によってコンテンツ閲覧アプリケーションが起動された直後に表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例である。

[0037] 以下の説明では、ユーザは、タッチパネルが備えられた表示部１４０を指やスタイラスペン等で触ることで、情報処理装置１００が実行するコンテンツ閲覧アプリケーションを操作するものとする。また以下の説明では、選択するとは、ユーザが指やスタイラスペンで表示部１４０をタッチする操作、タップする操作、またはダブルタップする操作のいずれかを行なうことを言うものとする。

[0038] また以下では、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されている際に、コンテンツ閲覧アプリケーションによる表示部１４０への情報の表示は制御

部１３０が実行するものとし、コンテンツ閲覧アプリケーションが表示部１４０に表示した情報に対する操作の検出は操作検出部１２０が行なうものとする。

[0039] 図３には、コンテンツ閲覧アプリケーションが起動された直後に、サムネイル画像の一部分のみが、表示部１４０の対向する辺の中心付近に、画像表示領域Ｕ１ａ、Ｕ１ｂとして表示された状態が示されている。なお、以降の説明では、情報処理装置１００はコンテンツ閲覧アプリケーションを実行していることを前提とする。

[0040] この画像表示領域Ｕ１ａ、Ｕ１ｂは、スワイプ操作、すなわち、図３の破線で囲まれた矢印の方向に指で滑らせる操作を受け付ける場所をユーザに提示するために設けられる領域である。情報処理装置１００のユーザは、表示部１４０に対して、画像表示領域Ｕ１ａ、Ｕ１ｂからスワイプ操作を行なうと、ドロワメニューを情報処理装置１００の表示部１４０に表示させることが出来る。この画像表示領域Ｕ１ａ、Ｕ１ｂに表示されるサムネイル画像の表示基準については後に述べる。

[0041] 図４Ａは、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図４Ａに示したのは、図３の状態から、ユーザが画像表示領域Ｕ１ａからスワイプ操作を実行した場合に、表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例である。

[0042] 情報処理装置１００のユーザが、表示部１４０に対して、コンテンツ閲覧アプリケーションが表示した画像表示領域Ｕ１ａ、Ｕ１ｂからスワイプ操作を行なうと、コンテンツ閲覧アプリケーションは、図４Ａに示したように、複数のアイコンを、スワイプ操作がされた辺の中央を中心に円弧状に並べたドロワメニューＵ２ａを表示部１４０に表示する。

[0043] このドロワメニューＵ２ａは、コンテンツの保存元をアイコンで表したメニューである。情報処理装置１００のユーザが、ドロワメニューＵ２ａとして表示されたアイコンが表示されている位置を指などで触ったことを検出す

ると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、触ったアイコンに対応する保存元に保存されているコンテンツのサムネイルを、ドロワメニューＵ２ａの外側に展開して表示部１４０に表示する。

[0044] コンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザのスワイプ操作に応じて、ドロワメニューＵ２ａに含まれる各アイコンを表示する際に、スワイプ操作がされると全て同時に表示してもよく、スワイプ操作がされるとまず１つのアイコンを表示し、そのアイコンから円弧状に展開するようにアニメーション表示してもよい。

[0045] なお、ドロワメニューＵ２ａに含まれるアイコンの数は図４Ａに示した例に限られないことは言うまでもなく、ドロワメニューＵ２ａに含まれるアイコンは、コンテンツの保存元の数に応じて表示され得る。

[0046] コンテンツの保存元としては、例えば、情報処理装置１００の内部の記憶装置（例えば記憶部１５０）の所定のディレクトリ、情報処理装置１００に接続された記録媒体の所定のディレクトリ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）その他のインターネット上のＷｅｂサービス等がある。

[0047] ドロワメニューＵ２ａには、これらのコンテンツの保存元のそれぞれを表したアイコンが表示される。なお、コンテンツの保存元として所定のディレクトリがユーザによって選択されると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、当該ディレクトリの下位にあるディレクトリや、コンテンツの種類ごとのディレクトリをドロワメニューＵ２ａに表示してもよい。

[0048] 図４Ｂは、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図４Ｂに示したのは、コンテンツの保存元として所定のディレクトリがユーザによって選択された場合の、表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例である。

[0049] コンテンツの保存元として所定のディレクトリがユーザによって選択されると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、図４Ｂに示したように、ディレ

クトリ表示領域Ｕ２１ａを表示する。図４Ｂに示した例では、コンテンツ閲覧アプリケーションは、ディレクトリ表示領域Ｕ２１ａに、画像ディレクトリ、映像ディレクトリ、楽曲ディレクトリを表示している。

[0050] 図４Ｃは、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図４Ｃに示したのは、コンテンツの保存元として、例えば図４Ｂに示した画像ディレクトリ、映像ディレクトリ、楽曲ディレクトリのいずれかがユーザによって選択された場合の、表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例である。

[0051] 画像ディレクトリ、映像ディレクトリ、楽曲ディレクトリのいずれかがユーザによって選択されると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、図４Ｃに示したように、選択されたディレクトリに存在するフォルダを表示するフォルダ表示領域Ｕ２２ａを表示する。またコンテンツ閲覧アプリケーションは、図４Ｃに示したように、現在どの保存元が選択されているかを示す保存元アイコンＵ４ａを表示する。

[0052] 図５は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図５に示したのは、情報処理装置１００のユーザが、ドロワメニューＵ２ａの中のあるアイコンにタッチする操作を行った場合に、表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例である。

[0053] 情報処理装置１００のユーザが、ドロワメニューＵ２ａの中のある１つのアイコンにタッチする操作を行ったことを検出すると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、図５に示したように、そのアイコンに対応する保存元に保存されているコンテンツのサムネイル画像を、スワイプ操作がされた辺の中央を中心に円弧状に並べたサムネイル画像表示領域Ｕ３ａを表示部１４０に表示する。またコンテンツ閲覧アプリケーションは、ドロワメニューＵ２ａの中のある１つのアイコンにタッチする操作をユーザが行ったことを検出すると、現在どの保存元がユーザに選択されているかを示す保存元アイコンＵ

４ａを表示する。

[0054] サムネイル画像表示領域Ｕ３ａに表示されるサムネイル画像は、例えば、コンテンツが静止画であればその静止画を縮小したもの、動画であればその動画の代表的な場面として抽出された場面を縮小したもの、楽曲であれば当該楽曲のジャケット画像を縮小したもの等である。また、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａに表示されるサムネイル画像は、例えばコンテンツが文書ファイル、ＰＤＦファイルである場合は、これらのファイルであることを示すアイコンである。

[0055] コンテンツ閲覧アプリケーションは、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａにサムネイル画像を表示する際に、ドロワメニューＵ２ａの中のあるアイコンへのタッチ操作がされると全て同時に表示してもよく、タッチ操作がされるとまず１つのサムネイル画像を表示し、サムネイル画像を起点として円弧状に展開するようにアニメーション表示してもよい。

[0056] サムネイル画像表示領域Ｕ３ａに当初表示されるサムネイル画像は、例えばコンテンツのファイル名の昇順に並べられる。情報処理装置１００のユーザが、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａに沿って指で滑らせる操作（例えば、図５の破線で囲まれた矢印の方向に指で滑らせる操作）を行なうと、コンテンツ閲覧アプリケーションは、その操作に応じて、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａに表示されているサムネイル画像を移動させる処理を実行する。

[0057] サムネイル画像が表示されている位置をユーザが指等で触り、触った状態を維持したまま表示部１４０の中央部分まで移動させてから、その指等を表示部１４０から離す操作（すなわち、コンテンツのサムネイル画像に対するドラッグ・アンド・ドロップ操作）を実行すると、情報処理装置１００は、そのサムネイル画像に対応するコンテンツを表示部１４０に表示する処理を制御部１３０で実行する。なおコンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザによるコンテンツのサムネイル画像のドラッグ・アンド・ドロップ操作が可能な範囲を、ドロワメニューＵ２ａから見て、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａの外側のみに制限しても良い

[0058] 図６は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図６に示したのは、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａに表示されているサムネイル画像に対し、情報処理装置１００のユーザがコンテンツのサムネイル画像のドラッグ・アンド・ドロップ操作を行った場合に、表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例である。

[0059] サムネイル画像表示領域Ｕ３ａに表示されているサムネイル画像に対し、情報処理装置１００のユーザがドラッグ・アンド・ドロップ操作を行うと、図６に示したように、コンテンツ閲覧アプリケーションは、そのサムネイル画像に対応するコンテンツを表示部１４０に表示する。なお、ユーザがサムネイル画像に対するドラッグ操作を行なっている最中は、コンテンツ閲覧アプリケーションは、サムネイル画像をそのまま表示部１４０に表示する処理を制御部１３０で実行する。

[0060] またユーザがサムネイル画像から手を離した際に表示部１４０に表示されるコンテンツの大きさは、そのコンテンツが静止画や動画であれば、そのコンテンツの解像度に応じて適切な大きさとなるようにコンテンツ閲覧アプリケーションで決定されてもよい。

[0061] なお、情報処理装置１００のユーザのドラッグ・アンド・ドロップ操作によってコンテンツが表示される場所のことを、本実施形態では「テーブル」とも称する。制御部１３０が実行するコンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザのドラッグ・アンド・ドロップ操作に応じてテーブルに表示したコンテンツの拡大、縮小、回転、移動、再生、編集、保存等の操作を可能とする。

[0062] また制御部１３０が実行するコンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザのサムネイル画像に対するドラッグ・アンド・ドロップ操作に応じてテーブルに表示したコンテンツに付随して、コンテンツのファイル名、タイトル、コンテンツが静止画又は動画である場合の撮影場所の情報その他の付加情報を表示する制御を実行し得る。なお、制御部１３０が実行するコンテンツ閲

覧アプリケーションは、付加情報として撮影場所の情報をコンテンツに付随して表示する際には、撮影場所を緯度及び経度の値で表示してもよく、緯度及び経度の値から地名に変換して表示してもよい。

[0063] また制御部１３０が実行するコンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザのドラッグ・アンド・ドロップ操作によってテーブルに表示したコンテンツを拡大して表示するための操作を受け付けることが出来る。例えば、テーブルに表示されたコンテンツのいずれかに対し、ユーザがダブルタップ操作その他の所定の操作を実行すると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、その操作の対象となったコンテンツを大きく表示する処理を実行する。

[0064] なお制御部１３０が実行するコンテンツ閲覧アプリケーションは、各サムネイル画像について、ドラッグ・アンド・ドロップ操作によって対応するコンテンツがテーブルに表示されている状態では、再度のドラッグ・アンド・ドロップ操作が出来ないように制限してもよい。例えば、図６に示すように、ドラッグ・アンド・ドロップ操作によってコンテンツがテーブルに表示されている状態では、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａで表示されるサムネイル画像の内、テーブルに表示されているコンテンツのサムネイル画像は暗く表示されるように制御部１３０で制御され得る。そして暗く表示されているサムネイル画像は、テーブルへのドラッグ・アンド・ドロップ操作を受け付けないように制御部１３０で制御され得る。

[0065] 情報処理装置１００は、ドロワメニューＵ２ａ及びサムネイル画像表示領域Ｕ３ａを、ドロワメニューＵ２ａを表示する方向と反対方向へのユーザのスワイプ操作によって表示部１４０から消去する処理を制御部１３０で実行する。情報処理装置１００は、ドロワメニューＵ２ａ及びサムネイル画像表示領域Ｕ３ａを消去させると、図３に示したような画像表示領域Ｕ１ａ、Ｕ１ｂを表示部１４０に表示する処理を制御部１３０で実行する。

[0066] 画像表示領域Ｕ１ａに表示されるサムネイル画像は、ドロワメニューＵ２ａ及びサムネイル画像表示領域Ｕ３ａを消去する前にユーザがドラッグ・アンド・ドロップ操作を行ったサムネイル画像が選択され得る。なお、初めて

コンテンツ閲覧アプリケーションが起動された場合など、ドロワメニューＵ２ａ及びサムネイル画像表示領域Ｕ３ａを消去する前にユーザがドラッグ・アンド・ドロップ操作を行ったサムネイル画像が存在しない場合は、コンテンツ閲覧アプリケーションは、サムネイル画像の代わりに画像表示領域Ｕ１ａを光らせるなどして、操作が可能な場所であることをユーザに提示し得る。

[0067] 図６には、サムネイル画像表示領域Ｕ３ａのみが表示されているが、表示部１４０の対向する辺にも、同様にスワイプ操作に応じてサムネイル画像表示領域が表示され得る。コンテンツ閲覧アプリケーションは、２人のユーザに、サムネイル画像表示領域に表示されるサムネイル画像に対するドラッグ・アンド・ドロップ操作を並行して行わせることができる。

[0068] 対向するサムネイル画像表示領域に表示されるサムネイル画像には、各ユーザによるコンテンツの保存元の選択状況や、サムネイル画像表示領域への操作状況によっては、同一のサムネイル画像が含まれる場合が考えられる。同一のサムネイル画像が対向するサムネイル画像表示領域に表示されている場合、一方のユーザがそのサムネイル画像に対するドラッグ・アンド・ドロップ操作を行なうと、他方のユーザの側のサムネイル画像表示領域に表示されるサムネイル画像は、上述のようにドラッグ・アンド・ドロップ操作を受け付けないように制御され得る。

[0069] 続いて、コンテンツ閲覧アプリケーションが表示するドロワメニュー以外のメニューの例を示す。

[0070] 図７は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図７に示したのは、ユーザの操作によって表示部１４０に表示されるメニューの例である。

[0071] ユーザが表示部１４０の任意の場所を２回素早く指などで接触する操作（いわゆるダブルタップ操作）を実行すると、情報処理装置１００は、そのユーザが接触した位置を中心としたメニューＵ５を表示部１４０に表示する処

理を制御部１３０で実行する。

[0072] 図７に示したメニューＵ５は、メニューＵ５を消去するボタンＵ５ａ、コンテンツの表示形態を変更するメニューを表示するボタンＵ５ｂ、背景を変更するメニューを表示するボタンＵ５ｃ、コンテンツの表示状態をライブラリとして保存するボタンＵ５ｄ、保存したライブラリを呼び出すボタンＵ５ｅ、コンテンツの表示状態をＰＤＦ（Ｐｏｒｔａｂｌｅ Ｄｏｃｕｍｅｎｔ Ｆｏｒｍａｔ）形式で保存するボタンＵ５ｆ、及びドロワメニューを表示するボタンＵ５ｇを含む。

[0073] このように、ユーザのダブルタップ操作によって表示部１４０に表示されるメニューＵ５は、ボタンＵ５ａを中心とした円の円周上に、ボタンＵ５ｂ～Ｕ５ｇが等間隔で配置されるように制御部１３０で表示が制御される。また、ユーザがメニューＵ５を消去するボタンＵ５ａに対する操作を行なうと、制御部１３０は、表示部１４０に表示されたメニューＵ５を全て表示部１４０から消去する処理を実行する。なお制御部１３０は、メニューＵ５が表示部１４０に表示されてから、メニューＵ５に対する操作が所定の時間行われなかった場合は、表示部１４０に表示されたメニューＵ５を全て表示部１４０から消去する処理を実行してもよい。

[0074] なお、図７に示したメニューＵ５は、ユーザのダブルタップ操作ではなく、ユーザの指等の任意の場所への所定時間以上の接触操作（長押し操作）によって表示されるようにしてもよい。またメニューＵ５として表示されるボタンの数は６個に限定されるものではない。またメニューＵ５として表示されるボタンの数が変わっても、制御部１３０は、ボタンＵ５ａから見て真上にボタンが配置されるように表示を制御しても良い。

[0075] またコンテンツ閲覧アプリケーションは、図７に示したメニューＵ５を、１つだけでなく、ユーザの操作に応じて複数表示しても良い。またコンテンツ閲覧アプリケーションは、図７に示したメニューＵ５を、どのような操作であっても同一の方向で各ボタンを表示してもよく、またユーザの指の形を操作検出部１２０で検出し、その指の形に応じて適切な方向で各ボタンを表

示してもよい。

[0076] 図８は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図８に示したのは、コンテンツの表示形態を変更するメニューを表示するボタンＵ５ｂをユーザが指などで触れた場合に表示部１４０に表示されるメニューの例である。

[0077] 図８には、ボタンＵ５ｂをユーザが指などで触れた場合に、ボタンＵ５ｂを中心とした円周上に、ボタンＵ５１ａ～５１ｄが表示部１４０に表示されている状態が示されている。ボタンＵ５１ａ～５１ｄは、コンテンツの表示形式（以下「ビュー」とも称する）を切り替えるためのボタンである。

[0078] 例えば、ボタンＵ５１ａは、コンテンツを分類して同じような種類や属性を有するものを積み重ねたように表示部１４０に表示するためのボタンである。コンテンツを分類して積み重ねるように表示する表示形式を、本実施形態では「スタックビュー」とも称する。ボタンＵ５１ｂは、ユーザがお気に入りのコンテンツとして指定したコンテンツを表示部１４０に表示するためのボタンである。

[0079] またボタンＵ５１ｃは、コンテンツを平面上に並べるように表示部１４０に表示するためのボタンである。ボタンＵ５１ｄは、コンテンツを地図上に並べるように表示部１４０に表示するためのボタンである。コンテンツを地図上に並べて表示する表示形式を、本実施形態では「マップビュー」とも称する。コンテンツを地図上に並べる際には、コンテンツの撮影場所にそのコンテンツが表示されるように並べる処理を制御部１３０で実行する。

[0080] なお制御部１３０は、ボタンＵ５１ａ～５１ｄが表示部１４０に表示されてから、ボタンＵ５１ａ～５１ｄのいずれかに対する操作が所定の時間行われなかった場合は、表示部１４０に表示されたメニューＵ５を、ボタンＵ５１ａ～５１ｄも含めて全て表示部１４０から消去する処理を実行してもよい。

[0081] 図９は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部

１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図９に示したのは、背景を変更するメニューを表示するボタンＵ５ｃをユーザが指などで触れた場合に表示部１４０に表示されるメニューの例である。

[0082] 図９には、ボタンＵ５ｄをユーザが指などで触れた場合に、ボタンＵ５ｄを中心とした円周上に、ボタンＵ５２ａ～５２ｄが表示部１４０に表示されている状態が示されている。

[0083] 例えば、ボタンＵ５２ａ～５２ｄは、いずれもコンテンツ閲覧アプリケーションの背景を変更するためのボタンである。ユーザがボタンＵ５２ａ～５２ｄを選択する操作（例えば、ボタンＵ５２ａ～５２ｄが表示されている場所を指などでタップする操作）を実行すると、制御部１３０は、コンテンツ閲覧アプリケーションの背景を、その選択されたボタンに対応する背景に変更する処理を実行する。

[0084] なお制御部１３０は、ボタンＵ５２ａ～５２ｄが表示部１４０に表示されてから、ボタンＵ５２ａ～５２ｄのいずれかに対する操作が所定の時間行われなかった場合は、表示部１４０に表示されたメニューＵ５を、ボタンＵ５２ａ～５２ｄも含めて全て表示部１４０から消去する処理を実行してもよい。

[0085] 情報処理装置１００により実行されるコンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザの操作に応じて複数のコンテンツを並べて表示することが出来る。コンテンツ閲覧アプリケーションは、複数のコンテンツをユーザのドラッグ操作によって単に並べることも可能であるが、テーブルに表示されるコンテンツは大きさや回転状態がまちまちであることから、ユーザに向きや大きさを揃えさせる操作を行わせるのはユーザの操作性を低下させることになる。

[0086] そこで情報処理装置１００により実行されるコンテンツ閲覧アプリケーションは、複数のコンテンツを並べて表示するために、コンテンツ同士をぶつけ合わせるような動作をユーザに行わせる。コンテンツ閲覧アプリケーションは、コンテンツ同士をぶつけ合わせるような動作に応じ、そのぶつかり合ったコンテンツを並べて表示するモードに移行する。コンテンツ閲覧アプリ

ケーションは、コンテンツ同士をぶつけ合わせるような動作に応じ、そのぶつかり合ったコンテンツを並べて表示することで、ユーザの操作性を向上させ得る。

[0087] 図１０は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図１０に示したのは、コンテンツ閲覧アプリケーションが複数のコンテンツを並べて表示するために、テーブルに表示されているコンテンツ同士をぶつけ合わせるような動作をユーザに行わせる様子の例である。

[0088] 例えば、テーブルに表示されている２つのコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示するために、ユーザがコンテンツＰ１、Ｐ２に対してそれぞれ図中の矢印の方向にドラッグ操作を行って、２つのコンテンツＰ１、Ｐ２をぶつけ合わせる。操作検出部１２０は、２つのコンテンツＰ１、Ｐ２がぶつかり合うような操作が行われたことを検出し、制御部１３０は、２つのコンテンツＰ１、Ｐ２がぶつかり合ったことに応じて２つのコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示部１４０に表示する処理を実行する。

[0089] 図１１は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図１１に示したのは、ユーザのドラッグ操作によって２つのコンテンツＰ１、Ｐ２がぶつかり合ったことに応じて、２つのコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示部１４０に表示した例である。

[0090] ユーザのドラッグ操作によって２つのコンテンツＰ１、Ｐ２がぶつかり合ったことが操作検出部１２０により検出されると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、図１１に示したように、その２つのコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を表示する処理を実行する。コンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を表示する際は、コンテンツ閲覧アプリケーションは、コンテンツＰ１、Ｐ２を前面に表示させ、その他のコンテンツ（即ち、コンテンツＰ１、Ｐ２をコンテンツ）はコンテンツＰ１、Ｐ２の背後に半透明で表示させる。これは、コンテンツＰ１、Ｐ２のみが操作可能であり、その他のコ

ンテンツについては操作不可能な状態にあることを意味する。

[0091] またコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を表示部１４０に表示させる際は、コンテンツ閲覧アプリケーションは、コンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を消去するためのボタンＵ６を表示する。またコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を表示部１４０に表示させる際は、コンテンツ閲覧アプリケーションは、コンテンツＰ１、Ｐ２のメタデータを表示するためのボタンＵ７１、コンテンツのデータを削除するためのボタンＵ７２、コンテンツをお気に入りとして登録するためのボタンＵ７３、コンテンツをロックする（削除できないようにする）ためのボタンＵ７４、及びコンテンツをコピーするためのボタンＵ７５を表示する。

[0092] 図１１のようにコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を表示する際には、コンテンツ閲覧アプリケーションは、これらのコンテンツの付随情報をテーブルに表示する処理を実行する。付随情報には、例えばコンテンツのファイル名、タイトル、コンテンツが静止画または動画の場合は撮影場所等の情報、コンテンツがＷｅｂページをクリッピングしたものであればそのＷｅｂページのＵＲＬなどが含まれ得る。

[0093] 図１１のようにコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面が表示されている状態で、ユーザがいずれか一方のコンテンツを選択する操作を実行したことを検出すると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、その選択されたコンテンツに対する処理をコンテンツの種類に応じて実行する。例えば、コンテンツが静止画であればその静止画を拡大して表示する処理を、動画であればその動画を再生する処理を、楽曲であればその楽曲を再生する処理を、Ｗｅｂページのクリッピングであれば当該Ｗｅｂページへアクセスする処理を、制御部１３０は実行する。

[0094] コンテンツ閲覧アプリケーションは、図１１のようにコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を表示する際には、これらのコンテンツに対して、お気に入りとして登録する、ロックして削除出来ないようにする、削除する、等の処理を可能としてもよい。コンテンツ閲覧アプリケーションは、図１

１のようにコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示する画面を表示する際には、表示したコンテンツＰ１、Ｐ２のメタデータを表示するためのボタンを合わせて表示しても良い。

[0095] コンテンツ閲覧アプリケーションは、２つのコンテンツＰ１、Ｐ２が触れ合ってから、コンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示するモードへ移行するまでに、２つのコンテンツＰ１、Ｐ２に対してアニメーションを行なっても良い。コンテンツ閲覧アプリケーションは、このコンテンツＰ１、Ｐ２に対するアニメーションを、例えば、テーブル上に配置された２つのコンテンツＰ１、Ｐ２それぞれに対して、画像を徐々に拡大する表示制御、および、画像の長手方向を２分する中心線を軸として回転させつつ、その回転軸を徐々に画面の長手方向に対して水平になるように徐々に傾けるようにして回転動作を制御する表示制御により行ってもよい。コンテンツ閲覧アプリケーションは、このようなアニメーションをコンテンツＰ１、Ｐ２に対して行いつつ、最終的には、図１１に示すようなコンテンツＰ１、Ｐ２を並べて表示するモードへ移行する。

[0096] コンテンツ閲覧アプリケーションは、図１１のように２つのコンテンツを並べて表示する画面に遷移するための条件として、２つのコンテンツがドラッグ操作されていることを前提に、例えば２つのコンテンツが接触すると無条件で遷移してもよく、２つのコンテンツの移動方向の角度が所定の角度以上で接触した場合に遷移してもよく、２つのコンテンツの相対的な移動速度が所定の速度以上で接触した場合に遷移してもよい。

[0097] また、ユーザに選択されている２つのコンテンツの内、片方のコンテンツはユーザによって動かされていなくても、コンテンツ閲覧アプリケーションは、２つのコンテンツが接触したり、移動方向の角度が所定の角度以上で接触したり、相対的な移動速度が所定の速度以上で接触したりした場合に、図１１のように２つのコンテンツを並べて表示する画面に遷移してもよい。

[0098] なお本実施形態では、ユーザが２つのコンテンツをぶつけ合う操作を実行した場合に２つのコンテンツを並べて表示する画面に遷移する例を示したが

、コンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザが３つ以上のコンテンツをぶつけ合う操作を実行した場合にも同様に、そのぶつかり合ったコンテンツを並べて表示する画面に遷移してもよい。

[0099] また本実施形態では、ユーザが２つのコンテンツをぶつけ合う操作を実行した場合に２つのコンテンツを並べて表示する画面に遷移する例を示したが、本開示は、ユーザが２つのコンテンツをぶつけ合う操作を実行した場合に行われる処理は係る例に限定されるものではない。例えば、ユーザが２つのコンテンツをぶつけ合う操作を実行した場合に、コンテンツ閲覧アプリケーションは、その２つのコンテンツを用いたモーフィング処理を実行してもよく、その２つのコンテンツをグルーピングする処理を実行してもよく、２つのコンテンツをモザイク状に組み合わせて合成する処理を実行してもよい。

[0100] 図１１に示したボタンＵ６をユーザが選択する操作を行なうと、コンテンツ閲覧アプリケーションは、２つのコンテンツを並べて表示している状態から、元の状態（ユーザが２つのコンテンツをぶつけ合う前の状態）に画面を遷移させる。この際、コンテンツ閲覧アプリケーションは、並べて表示していた２つのコンテンツを、ユーザによってぶつかり合う直前の位置に表示する。

[0101] 図１２は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図１２に示したのは、図１１に示した状態からユーザがボタンＵ６を選択した場合の、コンテンツ閲覧アプリケーションによるユーザインタフェースの例である。このように、ボタンＵ６をユーザが選択する操作を行なうと、コンテンツ閲覧アプリケーションは、並べて表示していた２つのコンテンツを、ユーザによってぶつかり合う直前の位置に表示する。

[0102] コンテンツ閲覧アプリケーションは、テーブルに表示されている複数のコンテンツを１つの山にまとめるための操作（以下、スイープ操作とも称する）を提供することが出来る。その操作について説明する。

[0103] 図１３～図１５は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることに

より表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。図１３～図１５に示したのは、テーブルに表示されている複数のコンテンツを１つにまとめるために、テーブルに対してスイープ操作をユーザが実行した場合のユーザインタフェースの例である。

[0104] 図１３に示したように、情報処理装置１００のユーザが、テーブル上のコンテンツが表示されてない領域の任意の点を選択する操作、すなわち指でタッチする操作を実行し、その後、タッチしたまま図１３中の矢印の方向に指を動かすことでスイープ操作を行なうと、図１４に示したように、コンテンツ閲覧アプリケーションは、テーブルに表示されている複数のコンテンツを１つにまとめる処理を実行する。コンテンツをまとめる際には、コンテンツ閲覧アプリケーションは、先にユーザの指が触れたコンテンツが上になるようにまとめてもよい。

[0105] そして、図１３に示した５つのコンテンツが全て１つの山にまとめられると、テーブルの表示は図１５に示したような状態となる。コンテンツ閲覧アプリケーションは、このようにユーザのスイープ操作に応じて、テーブルに置かれているコンテンツを１つの山にまとめて表示することができる。

[0106] なおコンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザがスイープ操作を行なっている際に、まとめられるコンテンツの回転状態を維持してもよく、ユーザの操作方向とコンテンツの重心との関係に基づいて回転させてもよい。

[0107] コンテンツ閲覧アプリケーションは、図１５のように１つの山にまとめられたコンテンツ全体を他の場所へ移動させるには、ユーザに、スワイプ操作と同様に、テーブル上のテーブル上のコンテンツが表示されてない領域の任意の点を指でタッチする操作を行わせてから、タッチしたままコンテンツの方向へスイープ操作を行わせる。

[0108] またコンテンツ閲覧アプリケーションは、図１５のように１つの山にまとめられたコンテンツから、一番上のコンテンツをテーブル上の他の場所へ移動させるには、ユーザにコンテンツの山にタッチする操作を行わせてからドラッグ操作を行わせる。コンテンツ閲覧アプリケーションは、この操作に応

じて、１つの山にまとめられたコンテンツから、一番上のコンテンツをテーブル上の他の場所へ移動させることができる。

[0109] コンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザによってコンテンツが並べられたテーブルの状態を保存し、またテーブルの状態を再現することが出来る。以下において、ユーザによってコンテンツが並べられたテーブルの状態を保存及び再現する場合の、コンテンツ閲覧アプリケーションのユーザインタフェース例について説明する。

[0110] 図１６～図１９は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[0111] まず、ユーザによってコンテンツが並べられたテーブルの状態を保存する場合のユーザインタフェース例を示す。図１６に示したのは、ユーザによってコンテンツが並べられたテーブルの状態を保存する場合の、コンテンツ閲覧アプリケーションのユーザインタフェース例である。

[0112] 上述したように、ユーザが表示部１４０の任意の場所を２回素早く指などで接触する操作（いわゆるダブルタップ操作）を実行すると、情報処理装置１００は、そのユーザが接触した位置を中心としたメニューＵ５を表示部１４０に表示する処理を制御部１３０で実行する。そして、メニューＵ５の内、コンテンツの表示状態をライブラリとして保存するボタンＵ５ｄをユーザが選択すると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、ボタンＵ５ｄをユーザが選択した時点でのテーブルの状態をライブラリとして保存するかどうかをユーザに問う画面を表示する。

[0113] 図１７は、ボタンＵ５ｄをユーザが選択した時点でのテーブルの状態をライブラリとして保存するかどうかをユーザに問う際に表示される、コンテンツ閲覧アプリケーションのユーザインタフェース例である。

[0114] 図１７には、ボタンＵ５ｄをユーザが選択した時点でのテーブルの状態を縮小した画像と、ユーザにライブラリとして保存させるための「ＯＫ」ボタンと、が表示されている状態が示されている。図１７に示した画面でユーザ

が「ＯＫ」ボタンを選択すると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、図１６に示したボタンＵ５ｄをユーザが選択した時点でのテーブルの状態をライブラリとして保存する。コンテンツ閲覧アプリケーションは、ライブラリを例えば記憶部１５０に保存してもよく、通信部１６０を介して通信により接続される他の装置に保存しても良い。

[0115] コンテンツ閲覧アプリケーションがライブラリとして保存するテーブルの状態は、各コンテンツに対する表示位置、表示サイズ、回転状態、コンテンツの積層状態である。コンテンツの積層状態は、最下層から昇順でナンバリングすることにより表すことが可能である。

[0116] またコンテンツが動画像や楽曲であった場合、コンテンツ閲覧アプリケーションは、そのコンテンツの再生位置をライブラリとして保存してもよい。またコンテンツ閲覧アプリケーションは、テーブルの背景の状態や、コンテンツのビューの状態をライブラリとして保存してもよい。

[0117] コンテンツ閲覧アプリケーションは、ライブラリとして保存したテーブルの状態を再現する機能を提供する。続いて、ユーザによってライブラリとして保存されたテーブルの状態を再現する場合のユーザインタフェース例を示す。

[0118] 図１８は、保存されたライブラリの中から１つのライブラリをユーザに選択させる際に表示される、コンテンツ閲覧アプリケーションのユーザインタフェース例である。図１８に示した画面は、例えば図７に示したようなメニューＵ５の内、保存したライブラリを呼び出すボタンＵ５ｅがユーザによって選択されると表示される。

[0119] ライブラリ一覧表示領域Ｕ７に表示されているライブラリのサムネイル画像は、上述のライブラリの保存処理によって保存されたライブラリから、コンテンツ閲覧アプリケーション生成したサムネイル画像である。ライブラリ一覧表示領域Ｕ７に表示されているライブラリのサムネイル画像の中から１つをユーザが選択すると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザが選択したライブラリのデータに基づいてコンテンツをテーブル上に再現する。

[0120] 図１９は、保存されたライブラリの中から１つのライブラリがユーザに選択された際に表示される、コンテンツ閲覧アプリケーションのユーザインタフェース例である。保存されたライブラリの中から１つのライブラリがユーザに選択されると、コンテンツ閲覧アプリケーションは、図１９に示すように、ユーザが選択したライブラリのデータに基づいてコンテンツをテーブル上に再現して表示する。

[0121] コンテンツ閲覧アプリケーションは、ユーザに選択されたライブラリのデータに基づいてコンテンツをテーブル上に再現し、ユーザがコンテンツに対するドラッグ操作等を行なってコンテンツの場所等を変更した後に、保存したライブラリを呼び出すボタンＵ５ｅをユーザが選択すると、現在のテーブルの状態を保存するかどうかを促すメッセージを表示しても良い。

[0122] 続いて、コンテンツ閲覧アプリケーションが提供するビュー（コンテンツの表示形式）について説明する。図２０～２２は、コンテンツ閲覧アプリケーションが実行されることにより表示部１４０に表示されるユーザインタフェースの例を示す説明図である。

[0123] 図２０は、コンテンツを平面上に並べるように表示するビューの例を示す説明図である。コンテンツ閲覧アプリケーションは、図８に示したボタンＵ５１ｃをユーザが選択したことにより、図２０に示したようなビューに切り替えてコンテンツを表示する。

[0124] 図２１は、コンテンツを分類して同じような種類や属性を有するものを積み重ねたように表示するビュー（スタックビュー）の例を示す説明図である。コンテンツ閲覧アプリケーションは、図８に示したボタンＵ５１ａをユーザが選択したことにより、図２１に示したようなスタックビューに切り替えてコンテンツを表示する。

[0125] コンテンツ閲覧アプリケーションは、コンテンツをスタックビューの形式で表示する場合、例えば所定のメタデータを有するものを１つの山にまとめてもよい。例えばコンテンツ閲覧アプリケーションは、同一のキーワードが含まれているもの、ある地点を中心に所定の範囲で撮像されたもの、などの

条件でコンテンツを１つの山にまとめてもよい。

[0126] 図２２は、コンテンツを地図上に表示するビュー（マップビュー）のの例を示す説明図である。コンテンツ閲覧アプリケーションは、図８に示したボタンＵ５１ｄをユーザが選択したことにより、図２１に示したようなビューに切り替えてコンテンツを表示する。

[0127] コンテンツ閲覧アプリケーションは、このように複数のビューの中から、ユーザによって指定された１つのビューでコンテンツを表示する。コンテンツ閲覧アプリケーションは、このように複数のビューを提供することで、様々な形式でコンテンツをユーザに閲覧させることが出来る。

[0128] 上述の説明では、操作検出部１２０は、操作部１１０（すなわち、表示部１４０と一体となって設けられるタッチパネル）に対するユーザの操作内容を検出し、制御部１３０は、操作検出部１２０が検出したユーザの操作内容に応じて各種メニュー、アイコン、コンテンツ等を表示部１４０に表示させていたが、本開示は係る例に限定されない。例えば操作部１１０がマウスであり、ユーザによる操作部１１０の操作に応じてマウスカーソルが表示部１４０に表示される場合であっても、制御部１３０は、操作検出部１２０が検出したユーザの操作内容に応じて各種メニュー、アイコン、コンテンツ等を表示部１４０に表示させ得る。

[0129] 操作部１１０がマウスであり、ユーザによる操作部１１０の操作に応じてマウスカーソルが表示部１４０に表示される場合は、上述のユーザの指やスタイラスペン等の接触が、マウスのクリックに相当し、ユーザの指やスタイラスペン等の近接が、単にマウスカーソルを移動させている状態に相当し得る。

[0130] ＜２．ハードウェア構成例＞

上記の情報処理装置１００の動作は、例えば、図２３に示す情報処理装置のハードウェア構成を用いて実行することが可能である。つまり、情報処理装置１００の動作は、コンピュータプログラムを用いて図２３に示すハードウェアを制御することにより実現されてもよい。なお、このハードウェアの

形態は任意であり、例えば、パーソナルコンピュータ、携帯電話、ＰＨＳ、ＰＤＡ等の携帯情報端末、ゲーム機、接触式又は非接触式のＩＣチップ、接触式又は非接触式のＩＣカード、又は種々の情報家電がこれに含まれる。但し、上記のＰＨＳは、Ｐｅｒｓｏｎａｌ　Ｈａｎｄｙ－ｐｈｏｎｅ　Ｓｙｓｔｅｍの略である。また、上記のＰＤＡは、Ｐｅｒｓｏｎａｌ　Ｄｉｇｉｔａｌ　Ａｓｓｉｓｔａｎｔの略である。

[0131] 図２３に示すように、このハードウェアは、主に、ＣＰＵ９０２と、ＲＯＭ９０４と、ＲＡＭ９０６と、ホストバス９０８と、ブリッジ９１０と、を有する。さらに、このハードウェアは、外部バス９１２と、インターフェース９１４と、入力部９１６と、出力部９１８と、記憶部９２０と、ドライブ９２２と、接続ポート９２４と、通信部９２６と、を有する。但し、上記のＣＰＵは、Ｃｅｎｔｒａｌ　Ｐｒｏｃｅｓｓｉｎｇ　Ｕｎｉｔの略である。また、上記のＲＯＭは、Ｒｅａｄ　Ｏｎｌｙ　Ｍｅｍｏｒｙの略である。そして、上記のＲＡＭは、Ｒａｎｄｏｍ　Ａｃｃｅｓｓ　Ｍｅｍｏｒｙの略である。

[0132] ＣＰＵ９０２は、例えば、演算処理装置又は制御装置として機能し、ＲＯＭ９０４、ＲＡＭ９０６、記憶部９２０、又はリムーバブル記録媒体９２８に記録された各種プログラムに基づいて各構成要素の動作全般又はその一部を制御する。ＲＯＭ９０４は、ＣＰＵ９０２に読み込まれるプログラムや演算に用いるデータ等を格納する手段である。ＲＡＭ９０６には、例えば、ＣＰＵ９０２に読み込まれるプログラムや、そのプログラムを実行する際に適宜変化する各種パラメータ等が一時的又は永続的に格納される。

[0133] これらの構成要素は、例えば、高速なデータ伝送が可能なホストバス９０８を介して相互に接続される。一方、ホストバス９０８は、例えば、ブリッジ９１０を介して比較的データ伝送速度が低速な外部バス９１２に接続される。また、入力部９１６としては、例えば、マウス、キーボード、タッチパネル、ボタン、スイッチ、及びレバー等が用いられる。さらに、入力部９１６としては、赤外線やその他の電波を利用して制御信号を送信することが可

能なリモートコントローラ（以下、リモコン）が用いられることもある。

[0134] 出力部９１８としては、例えば、ＣＲＴ、ＬＣＤ、ＰＤＰ、又はＥＬＤ等のディスプレイ装置、スピーカ、ヘッドホン等のオーディオ出力装置、プリンタ、携帯電話、又はファクシミリ等、取得した情報を利用者に対して視覚的又は聴覚的に通知することが可能な装置である。但し、上記のＣＲＴは、Ｃａｔｈｏｄｅ　Ｒａｙ　Ｔｕｂｅの略である。また、上記のＬＣＤは、Ｌｉｑｕｉｄ　Ｃｒｙｓｔａｌ　Ｄｉｓｐｌａｙの略である。そして、上記のＰＤＰは、Ｐｌａｓｍａ　ＤｉｓｐｌａｙＰａｎｅｌの略である。さらに、上記のＥＬＤは、Ｅｌｅｃｔｒｏ－Ｌｕｍｉｎｅｓｃｅｎｃｅ　Ｄｉｓｐｌａｙの略である。

[0135] 記憶部９２０は、各種のデータを格納するための装置である。記憶部９２０としては、例えば、ハードディスクドライブ（ＨＤＤ）等の磁気記憶デバイス、半導体記憶デバイス、光記憶デバイス、又は光磁気記憶デバイス等が用いられる。但し、上記のＨＤＤは、Ｈａｒｄ　Ｄｉｓｋ　Ｄｒｉｖｅの略である。

[0136] ドライブ９２２は、例えば、磁気ディスク、光ディスク、光磁気ディスク、又は半導体メモリ等のリムーバブル記録媒体９２８に記録された情報を読み出し、又はリムーバブル記録媒体９２８に情報を書き込む装置である。リムーバブル記録媒体９２８は、例えば、ＤＶＤメディア、Ｂｌｕ－ｒａｙメディア、ＨＤ　ＤＶＤメディア、各種の半導体記憶メディア等である。もちろん、リムーバブル記録媒体９２８は、例えば、非接触型ＩＣチップを搭載したＩＣカード、又は電子機器等であってもよい。但し、上記のＩＣは、Ｉｎｔｅｇｒａｔｅｄ　Ｃｉｒｃｕｉｔの略である。

[0137] 接続ポート９２４は、例えば、ＵＳＢポート、ＩＥＥＥ１３９４ポート、ＳＣＳＩ、ＲＳ－２３２Ｃポート、又は光オーディオ端子等のような外部接続機器９３０を接続するためのポートである。外部接続機器９３０は、例えば、プリンタ、携帯音楽プレーヤ、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、又はＩＣレコーダ等である。但し、上記のＵＳＢは、Ｕｎｉｖｅｒｓａｌ

Ｓｅｒｉａｌ　Ｂｕｓの略である。また、上記のＳＣＳＩは、Ｓｍａｌｌ　Ｃｏｍｐｕｔｅｒ　Ｓｙｓｔｅｍ　Ｉｎｔｅｒｆａｃｅの略である。

[0138] 通信部９２６は、ネットワーク９３２に接続するための通信デバイスであり、例えば、有線又は無線ＬＡＮ、Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ（登録商標）、又はＷＵＳＢ用の通信カード、光通信用のルータ、ＡＤＳＬ用のルータ、又は接触又は非接触通信用のデバイス等である。また、通信部９２６に接続されるネットワーク９３２は、有線又は無線により接続されたネットワークにより構成され、例えば、インターネット、家庭内ＬＡＮ、赤外線通信、可視光通信、放送、又は衛星通信等である。但し、上記のＬＡＮは、Ｌｏｃａｌ　Ａｒｅａ　Ｎｅｔｗｏｒｋの略である。また、上記のＷＵＳＢは、Ｗｉｒｅｌｅｓｓ　ＵＳＢの略である。そして、上記のＡＤＳＬは、Ａｓｙｍｍｅｔｒｉｃ　Ｄｉｇｉｔａｌ　Ｓｕｂｓｃｒｉｂｅｒ　Ｌｉｎｅの略である。

[0139] 例えば、情報処理装置１００がこのようなハードウェア構成を有する場合、例えば操作検出部１２０や制御部１３０の機能はＣＰＵ９０２が担い得る。また例えば操作部１１０の機能は入力部９１６が担い得る、また例えば記憶部１５０の機能はＲＯＭ９０４、ＲＡＭ９０６、記憶部９２０、又はリムーバブル記録媒体９２８が担い得る。また例えば、表示部１４０の機能は出力部９１８が担い得る。また例えば、通信部１６０の機能は通信部９２６が担い得る。

[0140] ＜３．まとめ＞

以上説明したように本開示の一実施形態によれば、複数のユーザが同一の画面上で効率よくコンテンツを利用することが可能なコンテンツ閲覧アプリケーションを実行する情報処理装置１００が提供される。コンテンツ閲覧アプリケーションを実行する情報処理装置１００は、表示部１４０の各辺の中点付近から画面中央へ向かう方向へのスワイプ操作をユーザに行わせることで、各辺にドロワメニューと称するコンテンツのサムネイル画像を表示するためのメニューを表示する。

[0141] また本開示の一実施形態によれば、２つのコンテンツを並べる操作を、コ

ンテンツをぶつけ合わせるような操作で実現することができるコンテンツ閲覧アプリケーションを実行する情報処理装置１００が提供される。本開示の一実施形態にかかる情報処理装置１００は、コンテンツ閲覧アプリケーションを実行することで、２つのコンテンツを並べる操作をユーザに容易に行わせることができる。

[0142] 本明細書の各装置が実行する処理における各ステップは、必ずしもシーケンス図またはフローチャートとして記載された順序に沿って時系列に処理する必要はない。例えば、各装置が実行する処理における各ステップは、フローチャートとして記載した順序と異なる順序で処理されても、並列的に処理されてもよい。

[0143] また、各装置に内蔵されるＣＰＵ、ＲＯＭおよびＲＡＭなどのハードウェアを、上述した各装置の構成と同等の機能を発揮させるためのコンピュータプログラムも作成可能である。また、該コンピュータプログラムを記憶させた記憶媒体も提供されることが可能である。また、機能ブロック図で示したそれぞれの機能ブロックをハードウェアで構成することで、一連の処理をハードウェアで実現することもできる。

[0144] 以上、添付図面を参照しながら本開示の好適な実施形態について詳細に説明したが、本開示はかかる例に限定されない。本開示の属する技術の分野における通常の知識を有する者であれば、特許請求の範囲に記載された技術的思想の範疇内において、各種の変更例または修正例に想到し得ることは明らかであり、これらについても、当然に本開示の技術的範囲に属するものと了解される。

[0145] 例えば、上述の例では、コンテンツ閲覧アプリケーションにおけるドロワメニューを表示させるための操作はスワイプ操作であるとして説明したが、本開示は係る例に限定されるものではない。例えばコンテンツ閲覧アプリケーションは、ドロワメニューを表示させるための操作は、画面の周縁部へのダブルタップ操作であってもよい。

[0146] なお、本技術は以下のような構成も取ることができる。

（１）

ユーザによる操作を検出する操作検出部と、

前記操作検出部の検出に応じて画面への表示を制御する制御部と、

を備え、

前記制御部は、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた第一の操作を前記操作検出部が検出すると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、前記第一のメニューへの第二の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、前記第二のメニューへの第三の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する制御を行なう、情報処理装置。

（２）

前記制御部は、前記第二のメニューとして、コンテンツのサムネイル画像を、前記第一の操作が行われた辺に沿って円弧状に表示させるメニューを表示する、前記（１）に記載の情報処理装置。

（３）

前記操作検出部は、前記第三の操作としてドラッグ・アンド・ドロップ操作を検出する、前記（１）または（２）に記載の情報処理装置。

（４）

前記制御部は、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺の中央部分に前記第三の操作により選択されたコンテンツのサムネイル画像の一部を表示する制御を行う、前記（１）～（３）のいずれかに記載の情報処理装置。

（５）

前記制御部は、前記画面の対向する２つの辺に沿って、前記第一の操作に応じてコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示する、前記（１）～（４）のいずれかに記載の情報処理装置。

（６）

ユーザによる操作を検出することと、

前記ユーザによる操作の検出に応じて画面への表示を制御することと、

を備え、

前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた操作が検出されると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、

前記第一のメニューへの第二の操作が検出されると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、

前記第二のメニューへの第三の操作が検出されると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する、情報処理方法。

（７）

コンピュータに、

ユーザによる操作を検出することと、

前記ユーザによる操作の検出に応じて画面への表示を制御することと、

を実行させ、

前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた操作が検出されると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、

前記第一のメニューへの第二の操作が検出されると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、

前記第二のメニューへの第三の操作が検出されると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する、コンピュータプログラム。

符号の説明

[0147] １００　情報処理装置

１１０　操作部

１２０　操作検出部

１３０　制御部

１４０　表示部

１５０　記憶部

１６０　通信部

請求の範囲

[請求項1] ユーザによる操作を検出する操作検出部と、

前記操作検出部の検出に応じて画面への表示を制御する制御部と、を備え、

前記制御部は、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた第一の操作を前記操作検出部が検出すると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、前記第一のメニューへの第二の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、前記第二のメニューへの第三の操作を前記操作検出部が検出すると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する制御を行なう、情報処理装置。

[請求項2] 前記制御部は、前記第二のメニューとして、コンテンツのサムネイル画像を、前記第一の操作が行われた辺に沿って円弧状に表示させるメニューを表示する、請求項１に記載の情報処理装置。

[請求項3] 前記操作検出部は、前記第三の操作としてドラッグ・アンド・ドロップ操作を検出する、請求項１に記載の情報処理装置。

[請求項4] 前記制御部は、前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺の中央部分に前記第三の操作により選択されたコンテンツのサムネイル画像の一部を表示する制御を行う、請求項１に記載の情報処理装置。

[請求項5] 前記制御部は、前記画面の対向する２つの辺に沿って、前記第一の操作に応じてコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示する、請求項１に記載の情報処理装置。

[請求項6] ユーザによる操作を検出することと、

前記ユーザによる操作の検出に応じて画面への表示を制御することと、

を備え、

前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた操作が検出されると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、

前記第一のメニューへの第二の操作が検出されると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、

前記第二のメニューへの第三の操作が検出されると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する、情報処理方法。

[請求項7] コンピュータに、

ユーザによる操作を検出することと、

前記ユーザによる操作の検出に応じて画面への表示を制御することと、

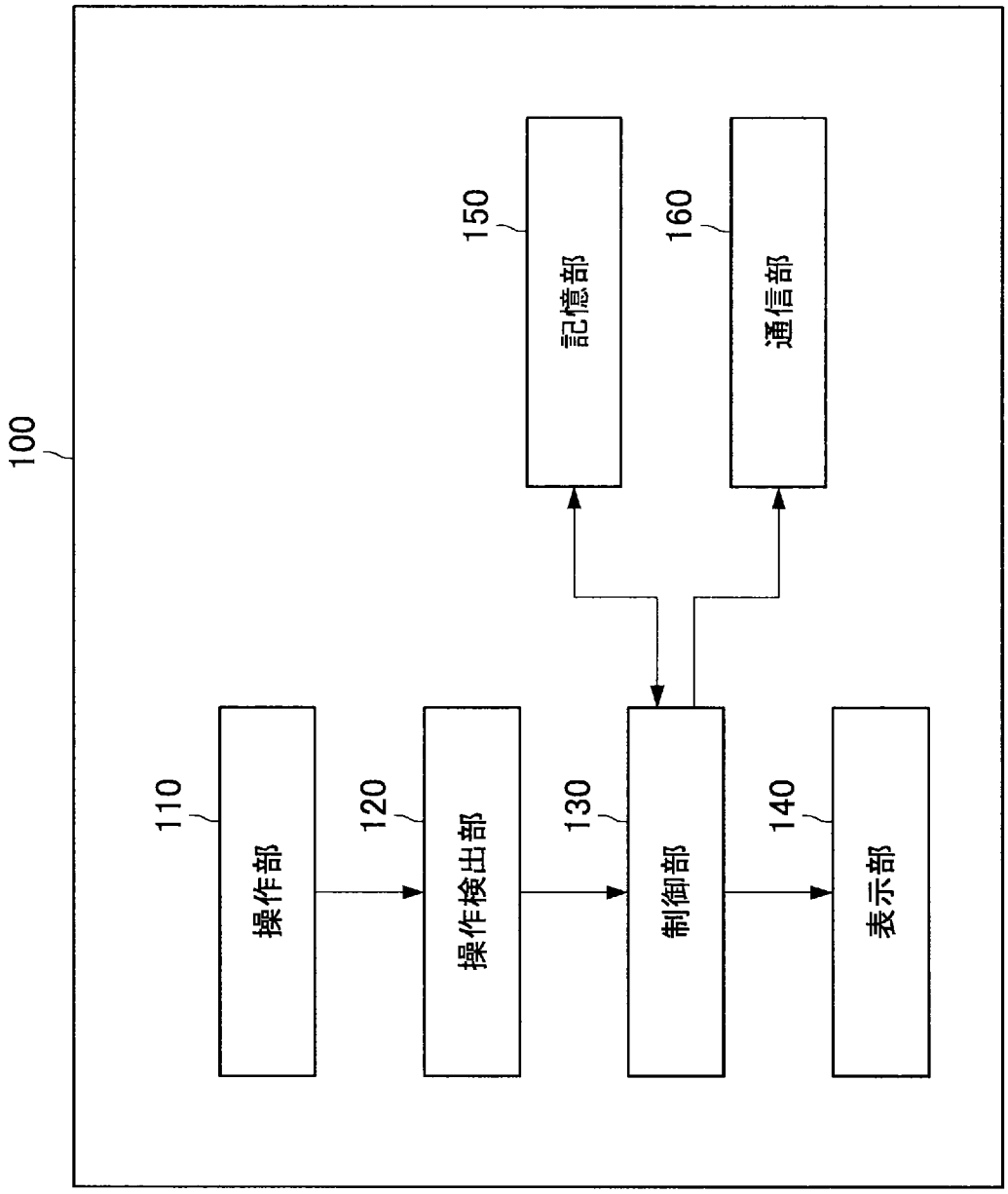
を実行させ、

前記画面の各辺の内少なくとも２つの辺において、各辺から前記画面の中央方向へ向けた操作が検出されると、前記画面の各辺に沿ってコンテンツの保存元を選択させる第一のメニューを表示し、

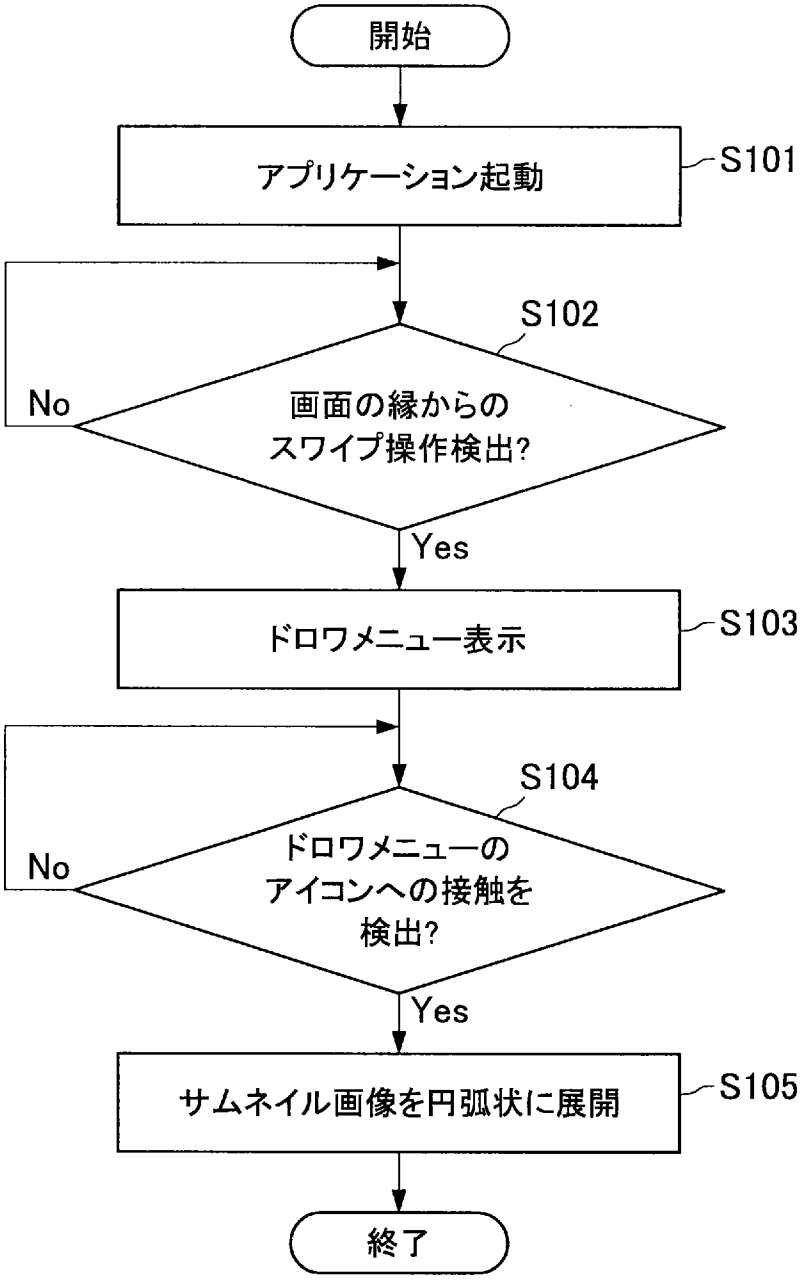
前記第一のメニューへの第二の操作が検出されると、前記第一のメニューの外側にコンテンツを選択させる第二のメニューを表示し、

前記第二のメニューへの第三の操作が検出されると、前記第三の操作により選択されたコンテンツを前記画面へ表示する、コンピュータプログラム。

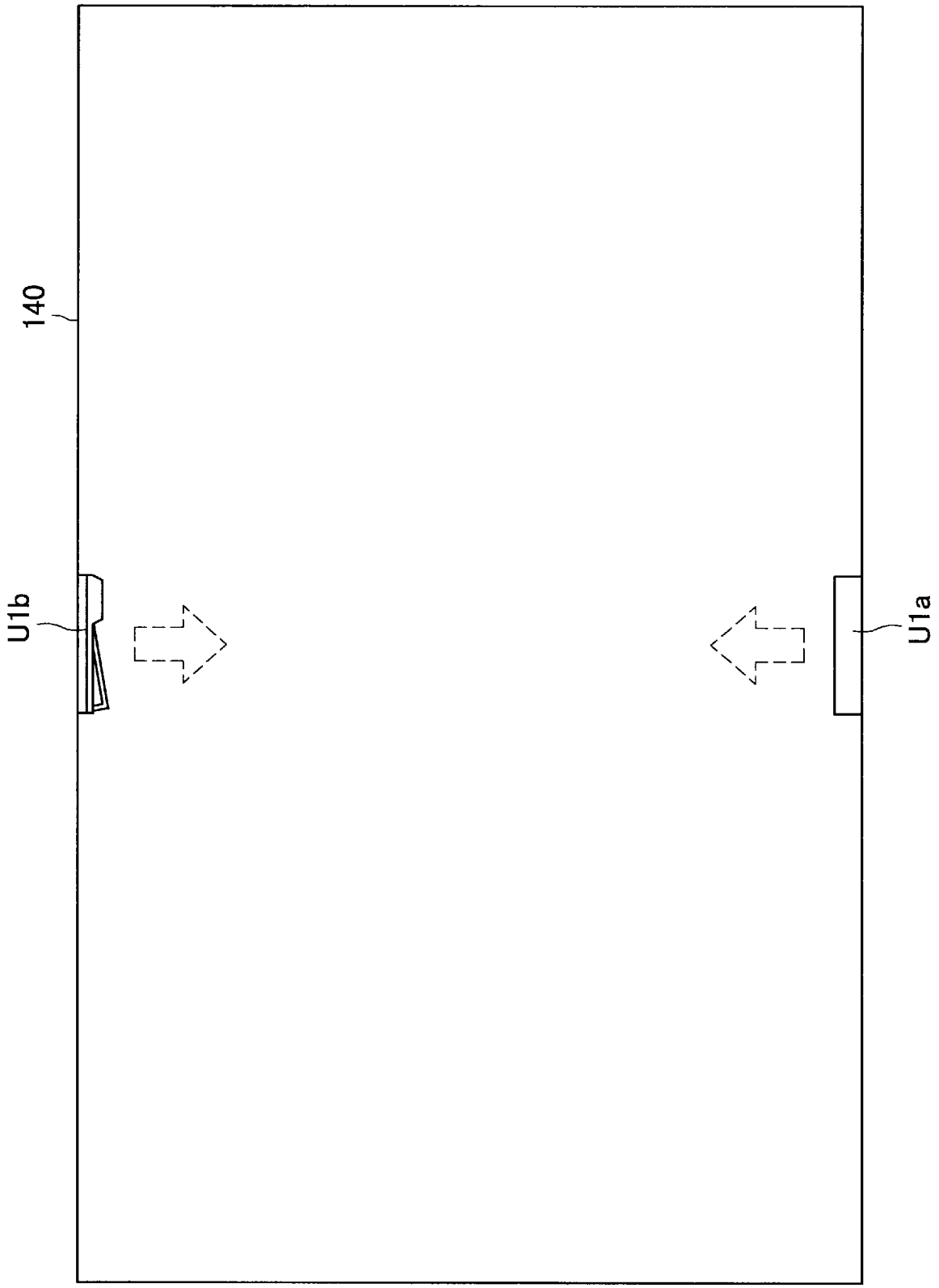
[図1]



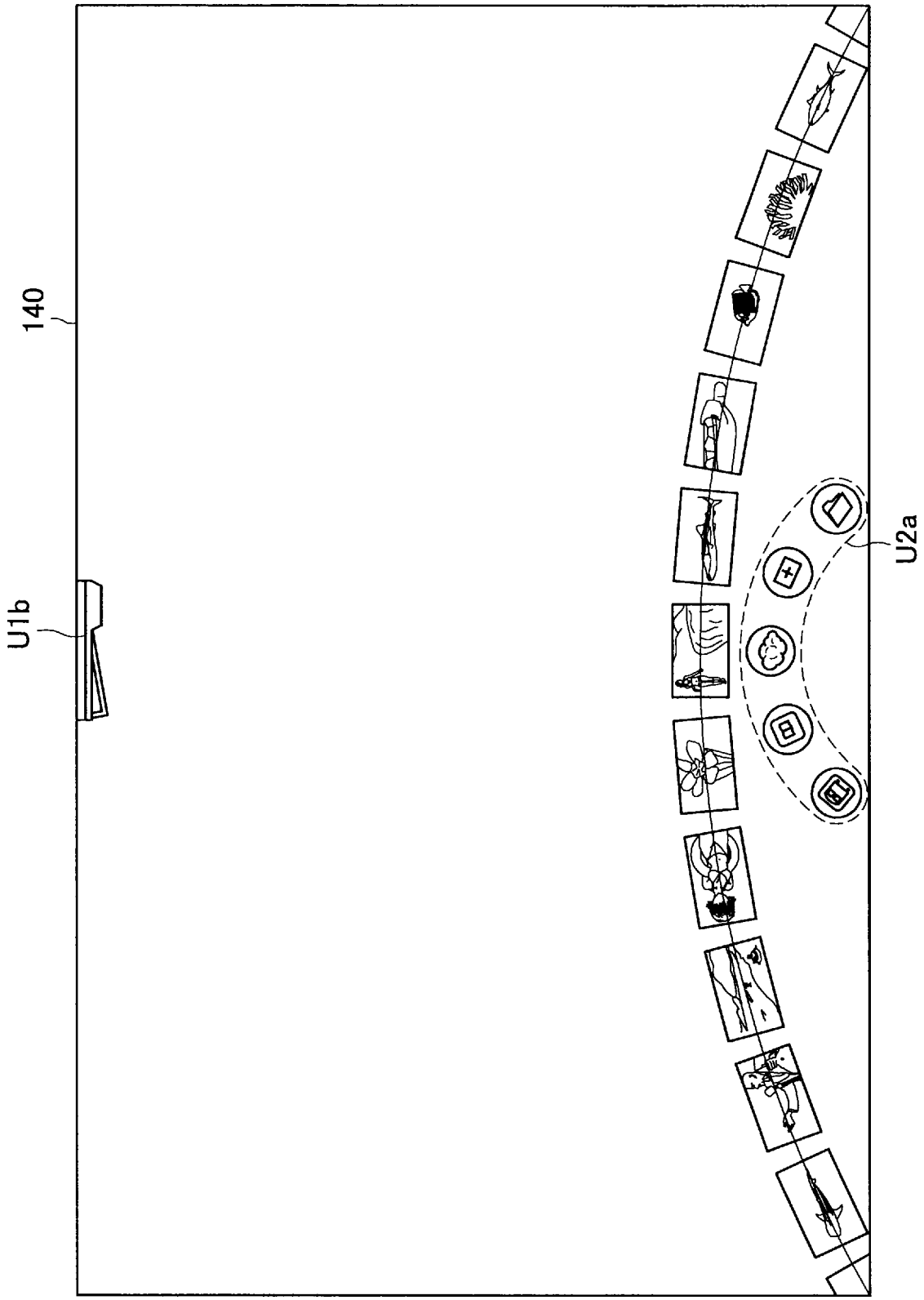
[図2]


開始
アプリケーション起動
S101
S102
No
画面の縁からの
スワイプ操作検出?
Yes
ドロワメニュー表示
S103
S104
No
ドロワメニューの
アイコンへの接触を
検出?
Yes
サムネイル画像を円弧状に展開
S105
終了

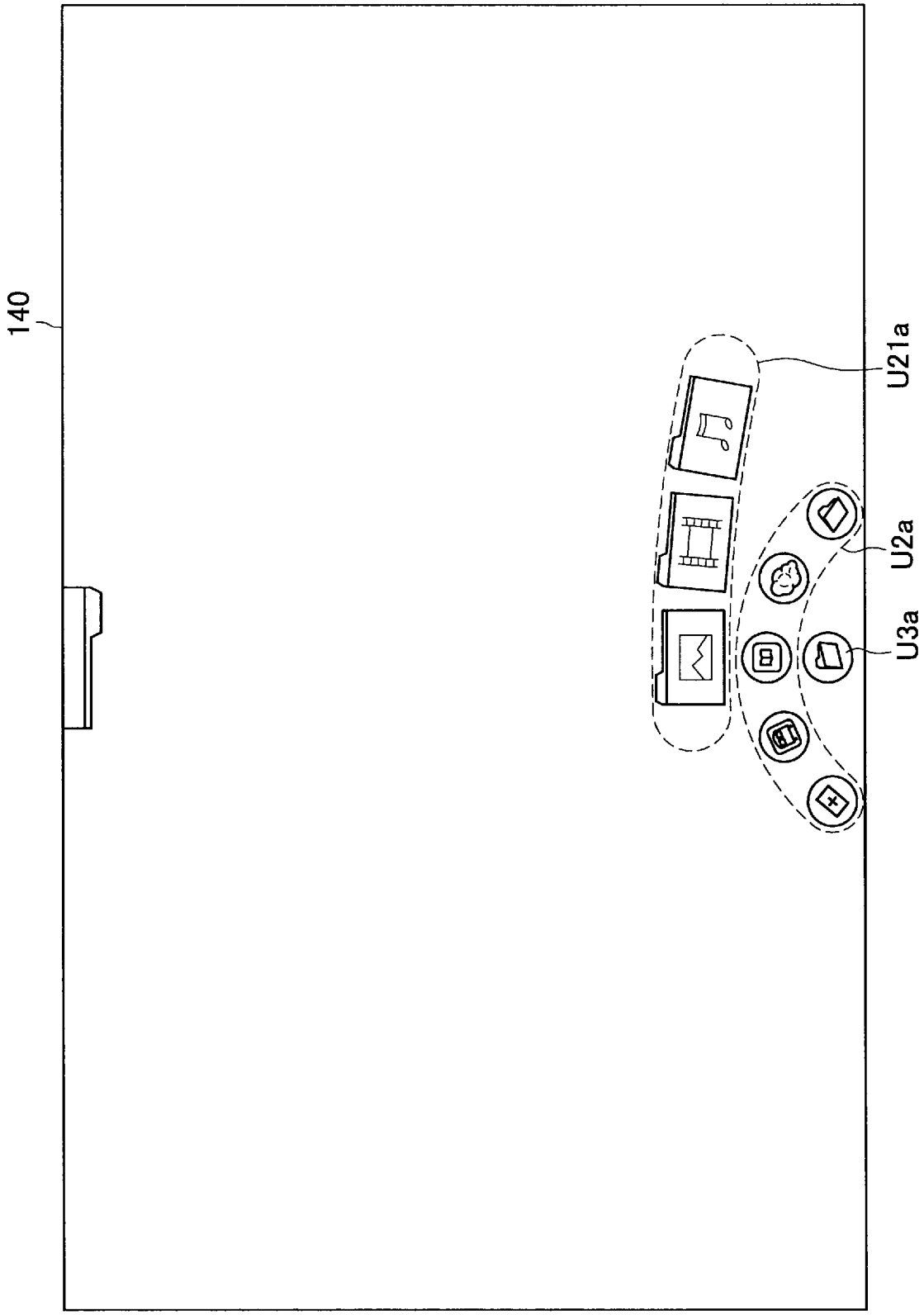
[図3]



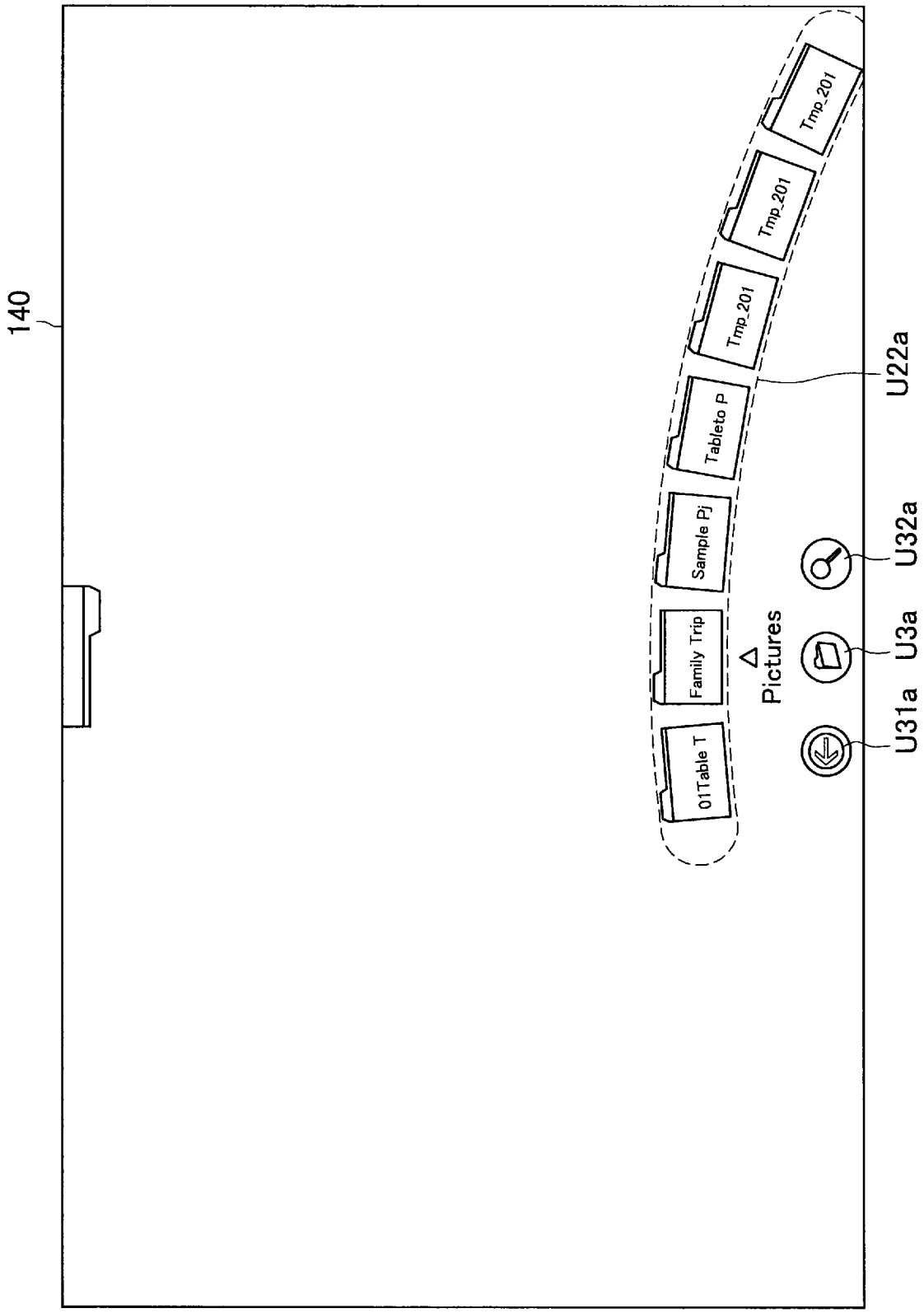
[図4A]



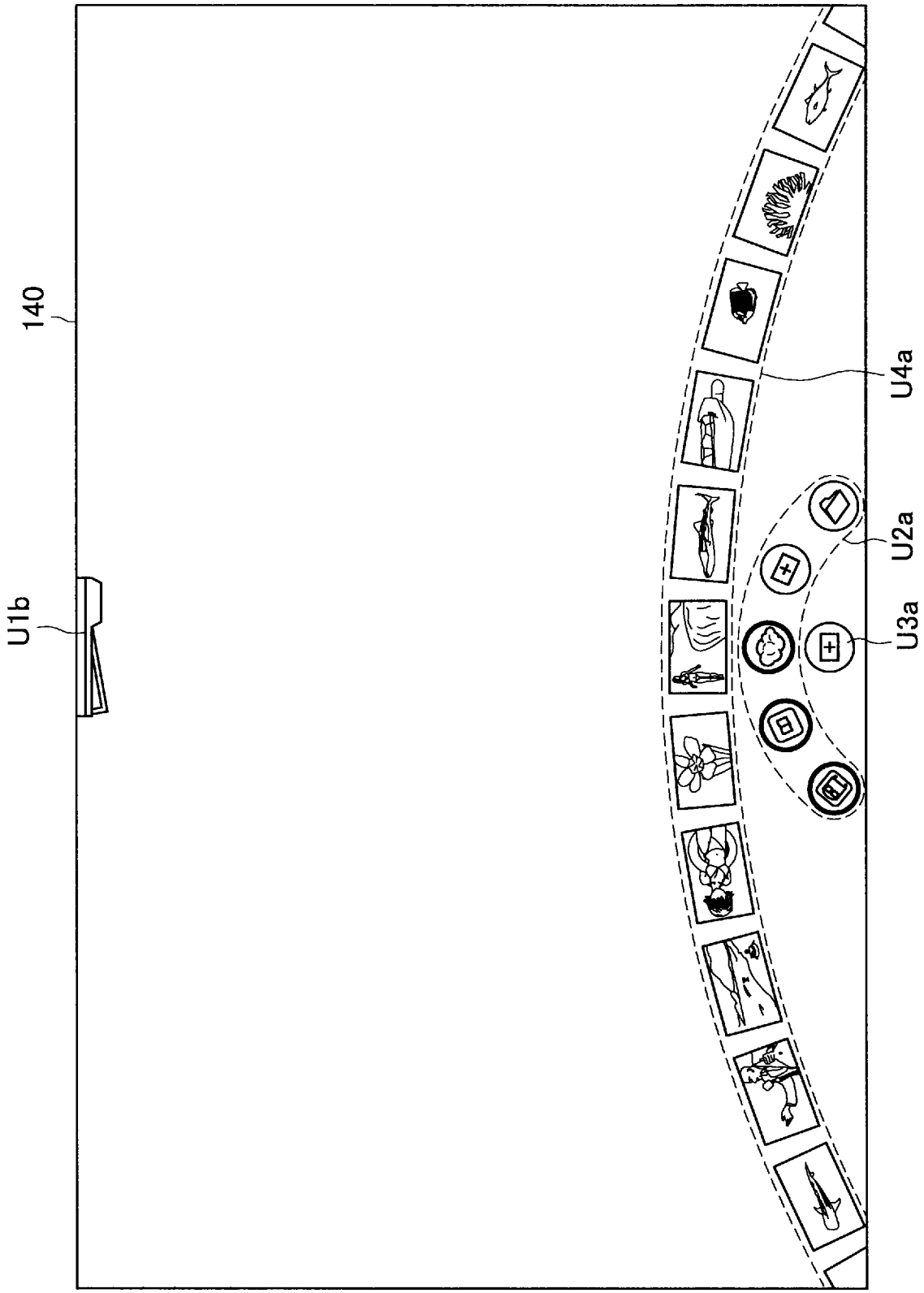
[図4B]



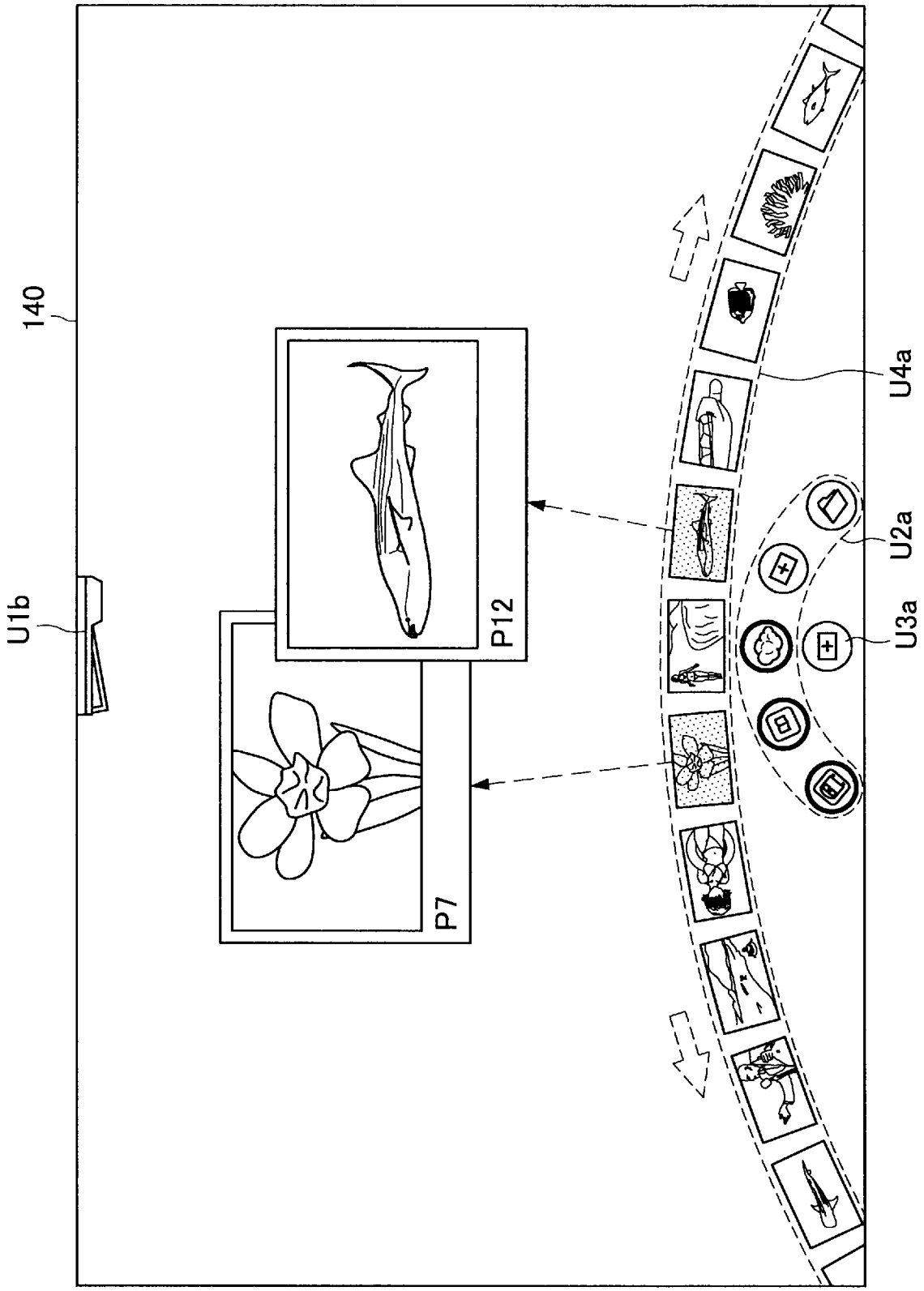
[図4C]


140
Tmp_201
Tmp_201
Tmp_201
Tableto P
Sample Pj
Family Trip
01Table T
Pictures
U22a
U32a
U3a
U31a

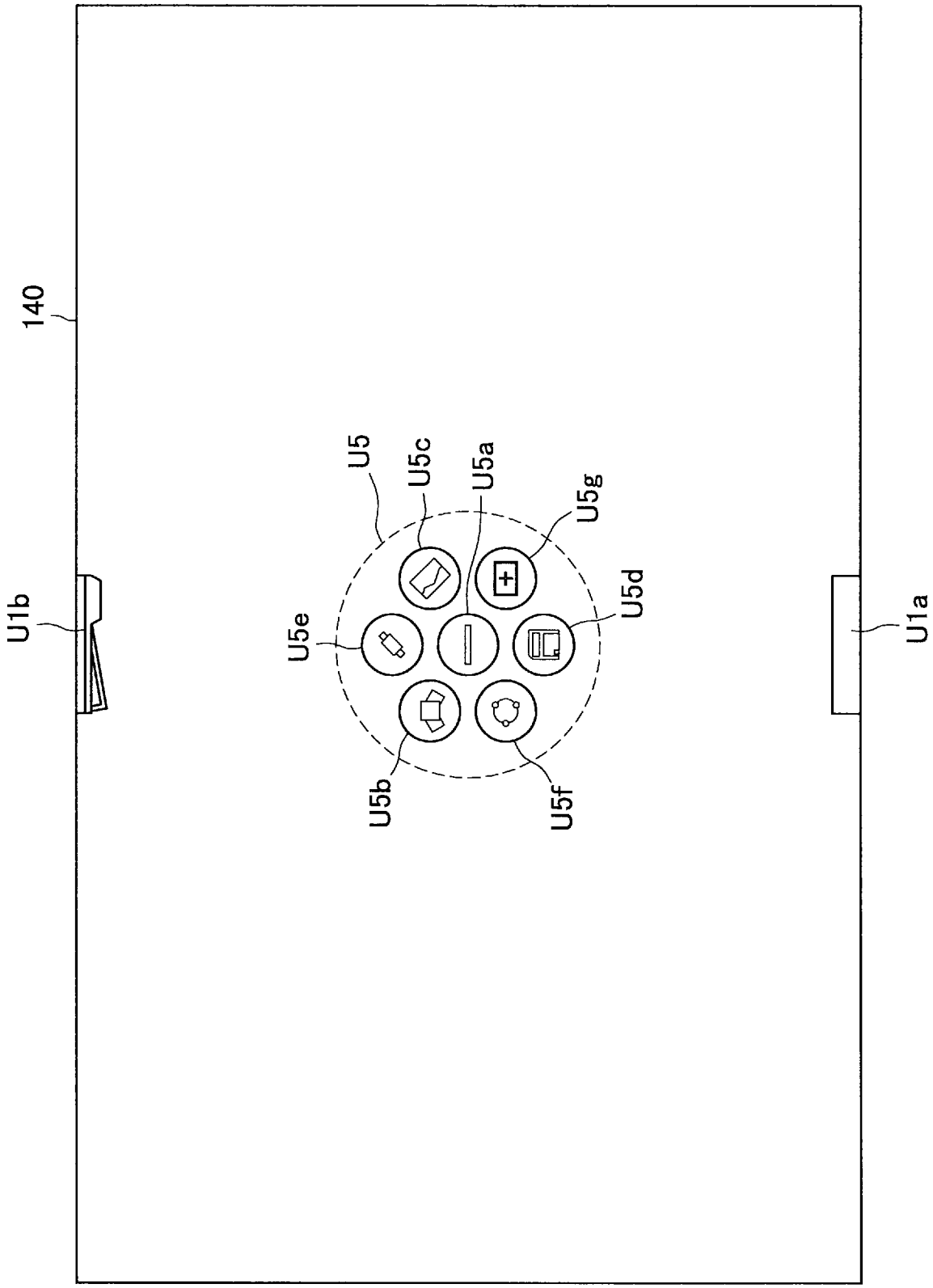
[図5]



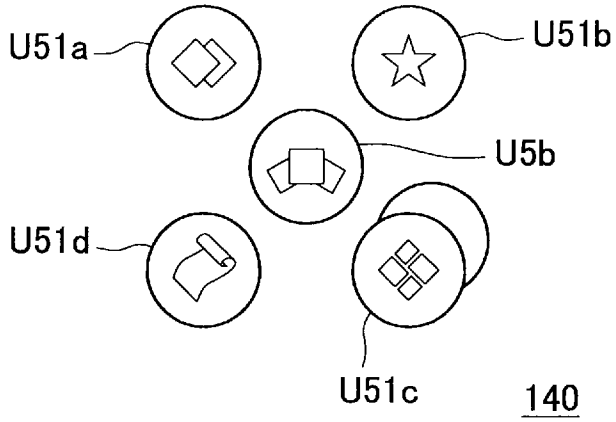
[図6]



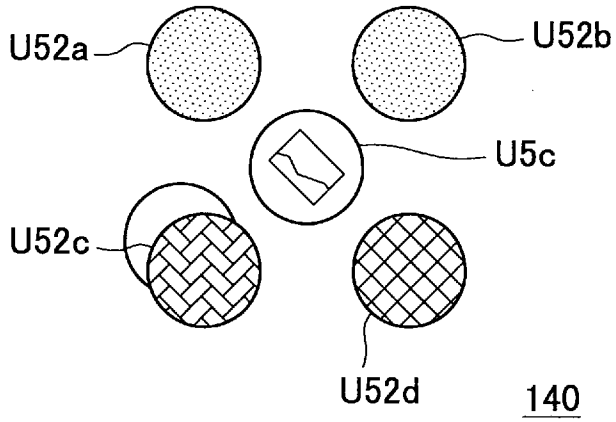
[図7]



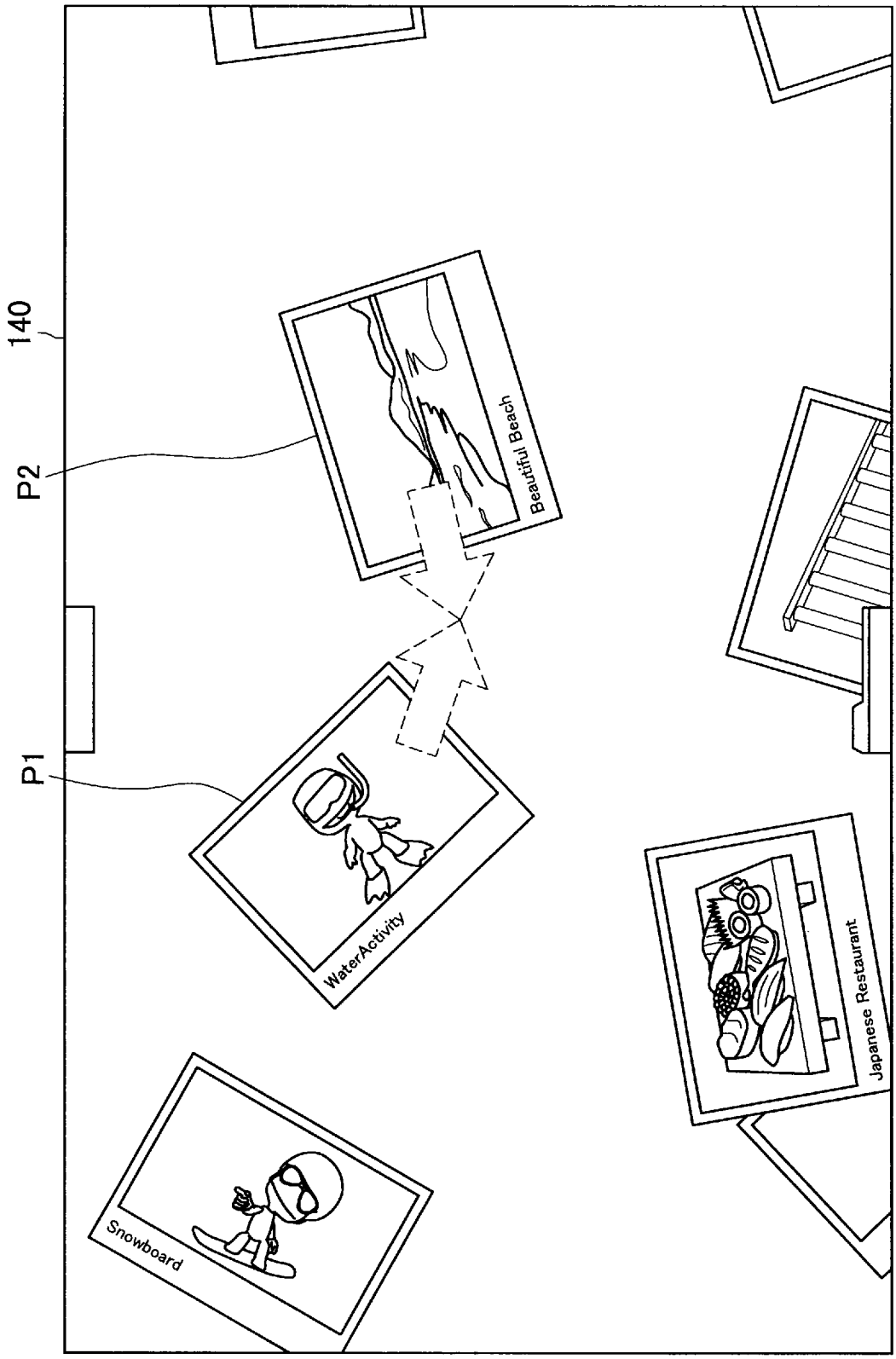
[図8]



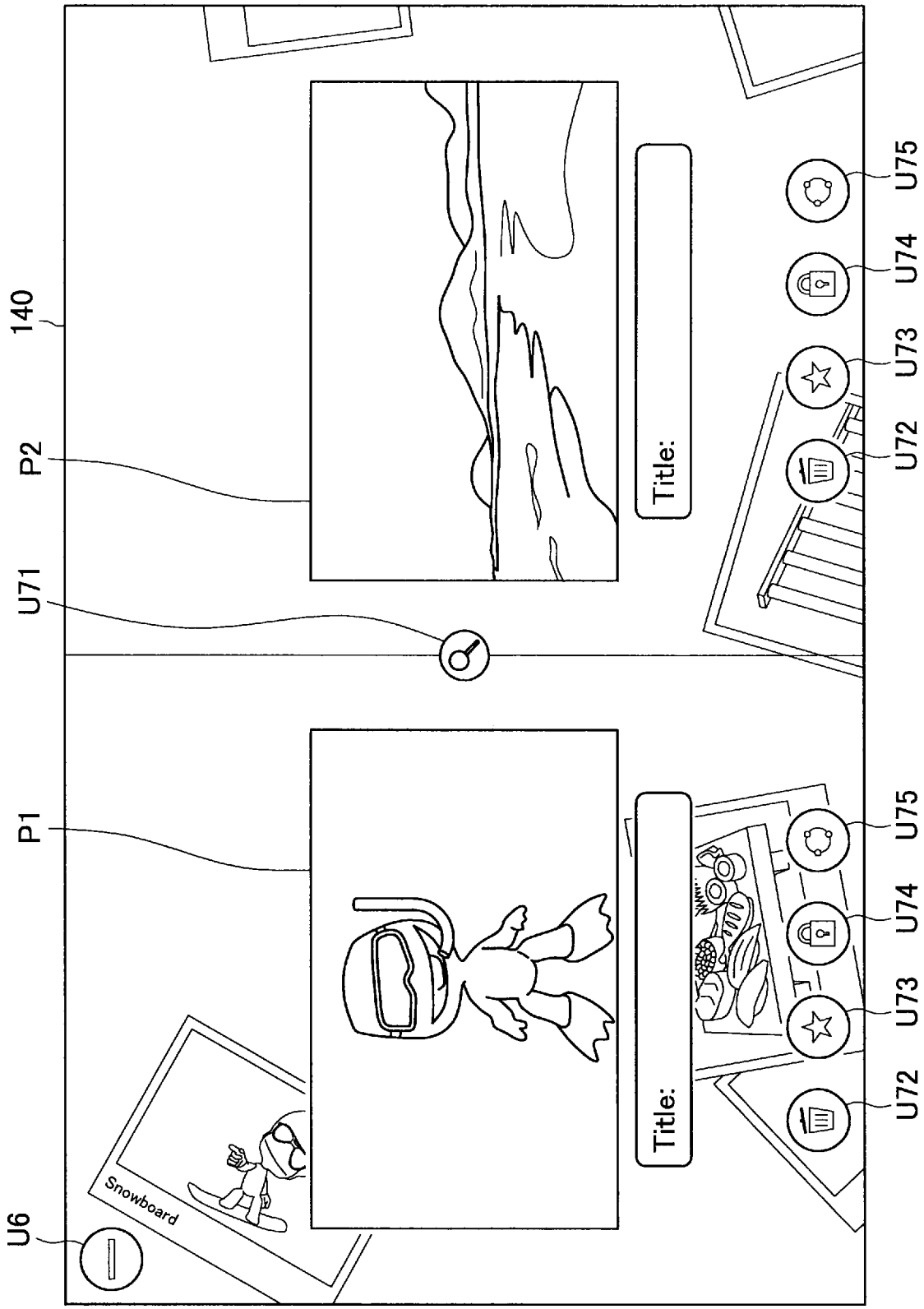
[図9]



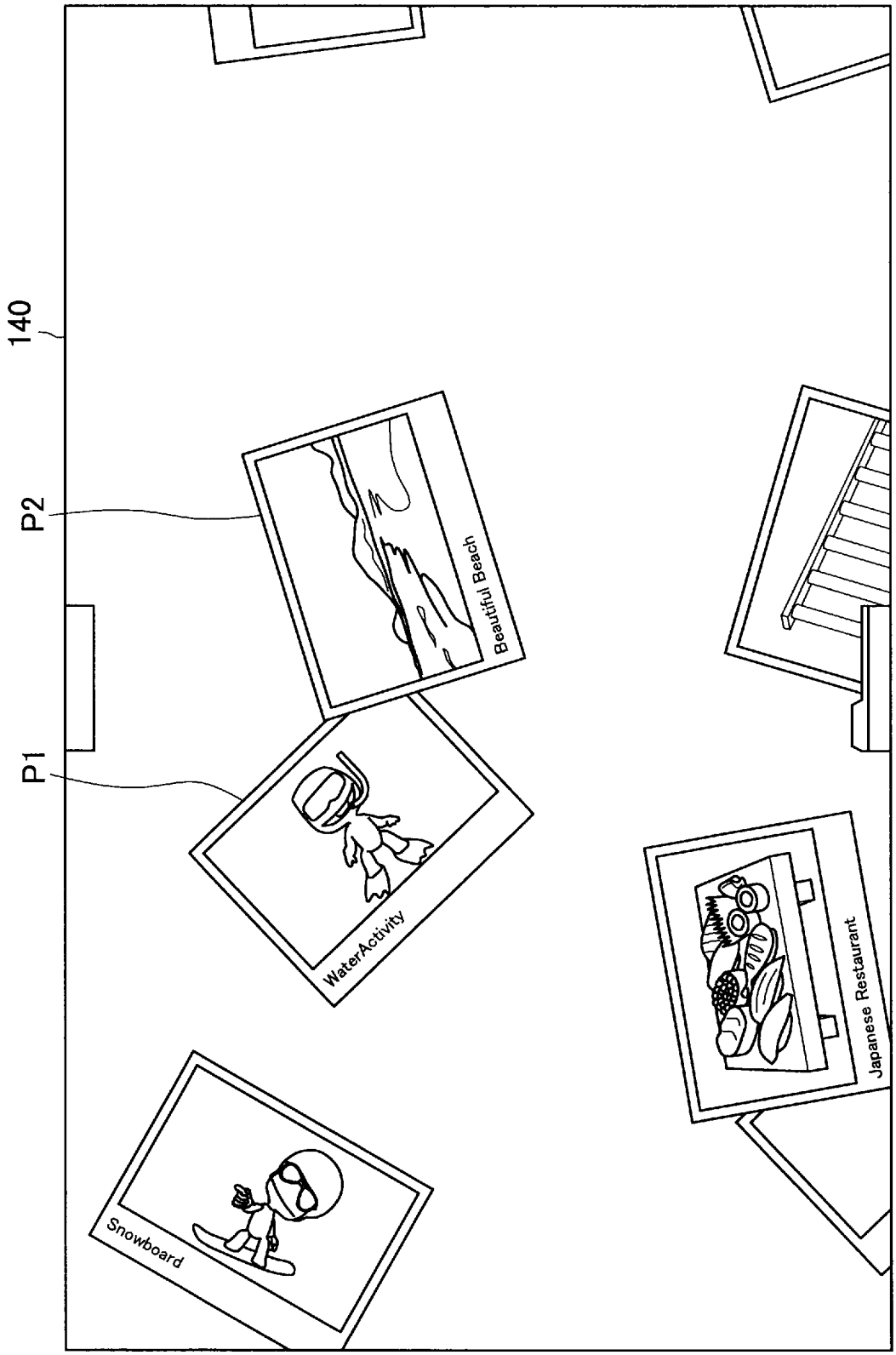
[図10]


140
P2
P1
Beautiful Beach
WaterActivity
Snowboard
Japanese Restaurant

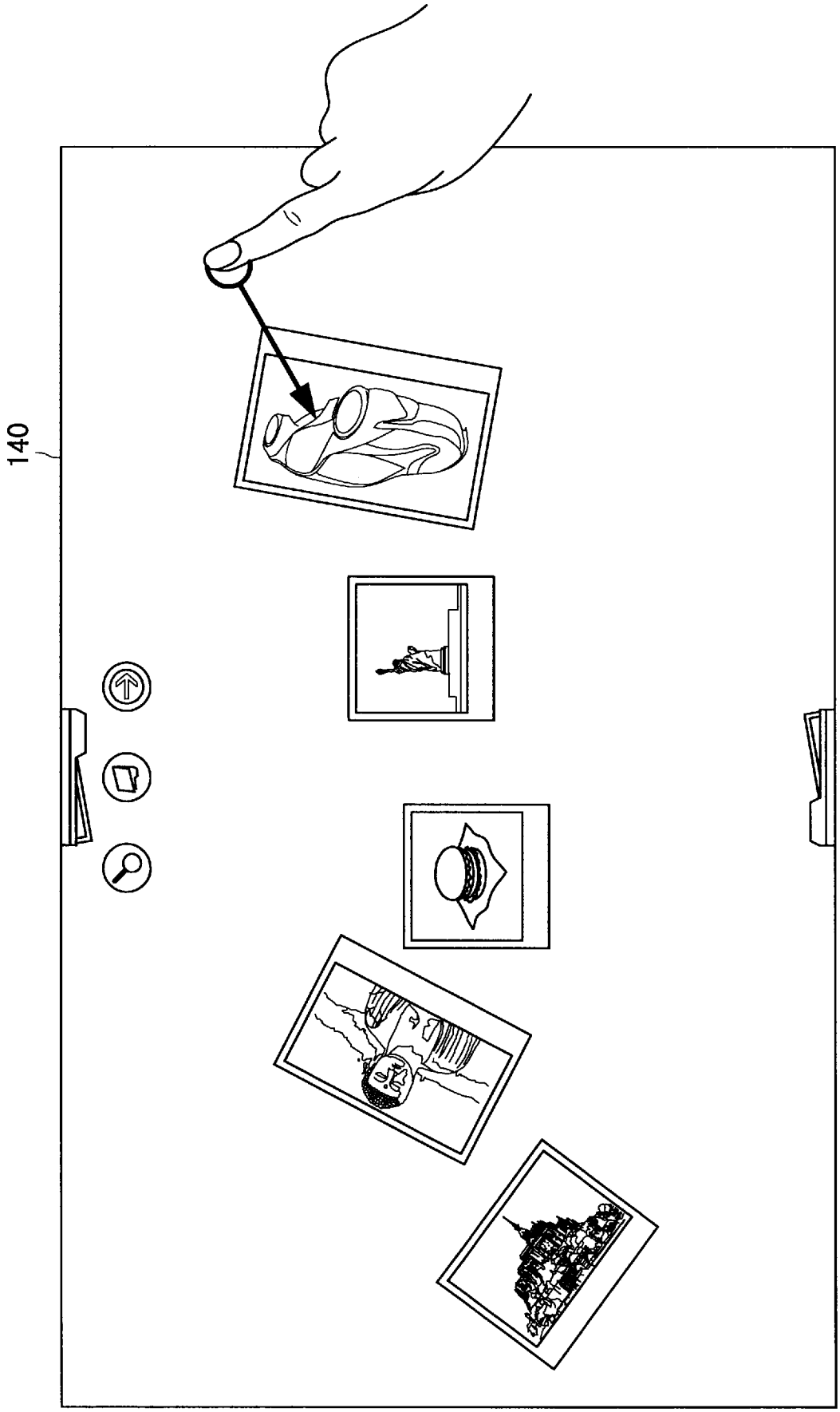
[図11]


140
P2
U71
P1
U6
Title:
Title:
Snowboard
U75
U74
U73
U72
U75
U74
U73
U72

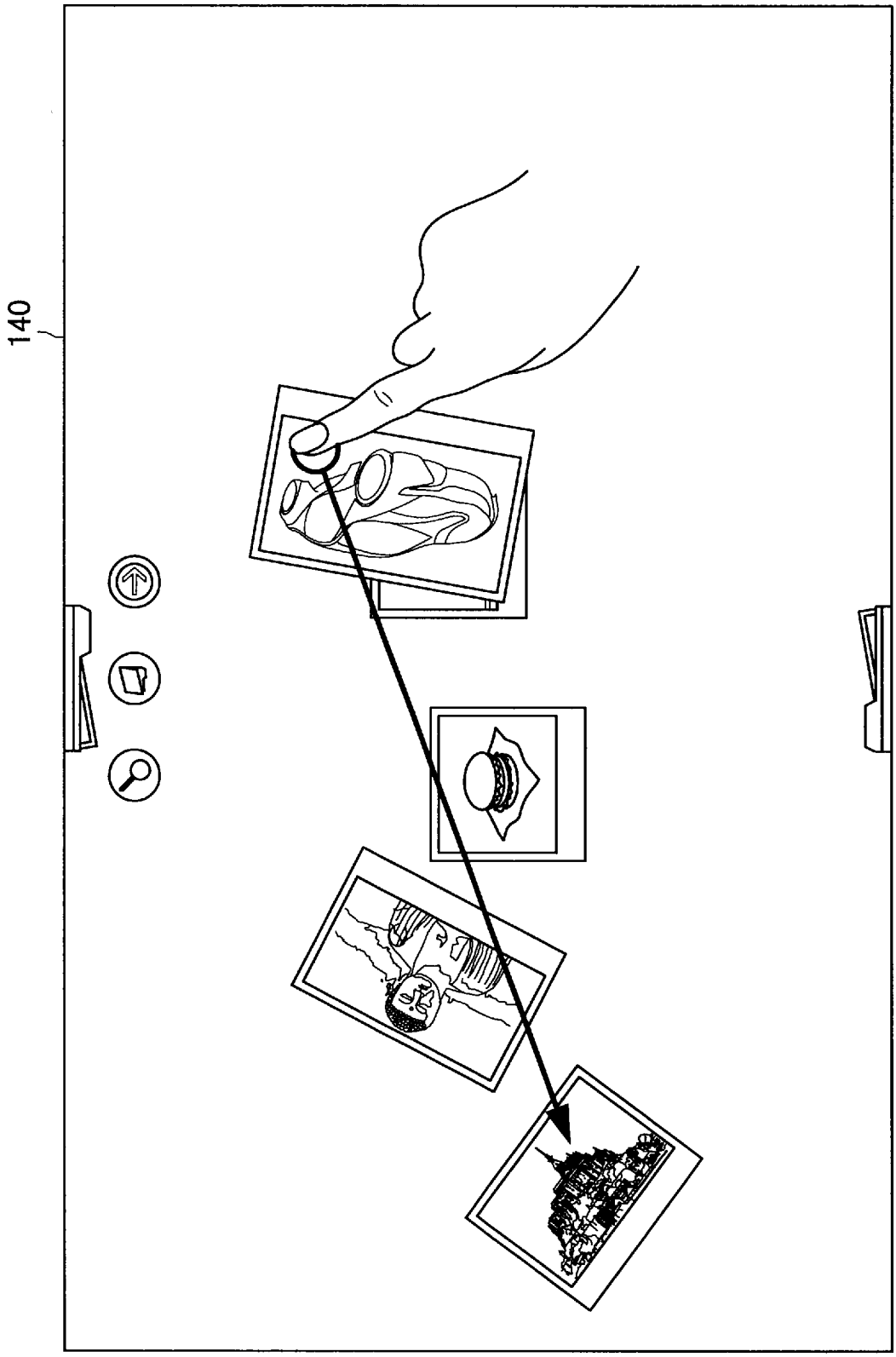
[図12]


140
P2
P1
Beautiful Beach
WaterActivity
Snowboard
Japanese Restaurant

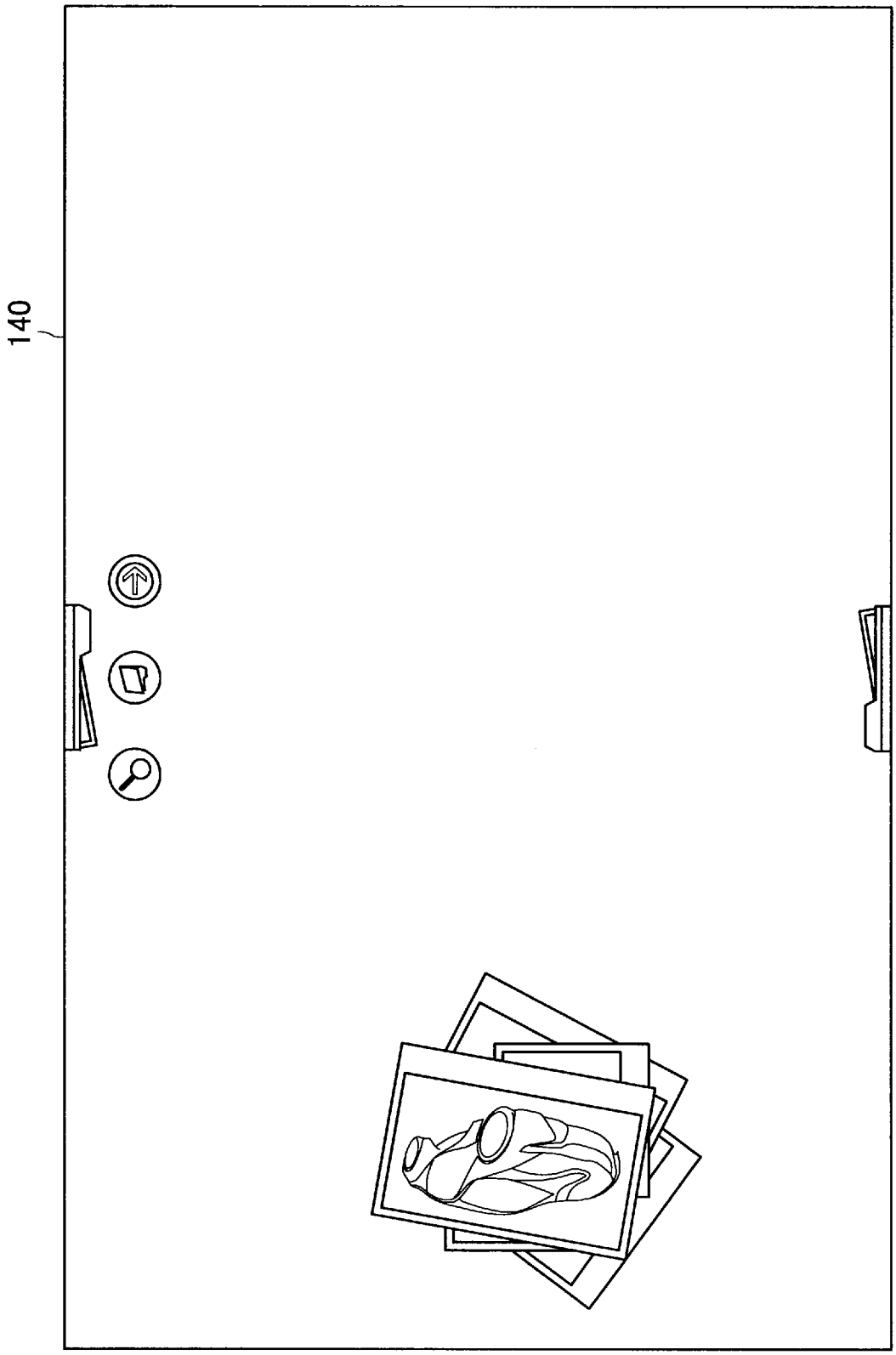
[図13]



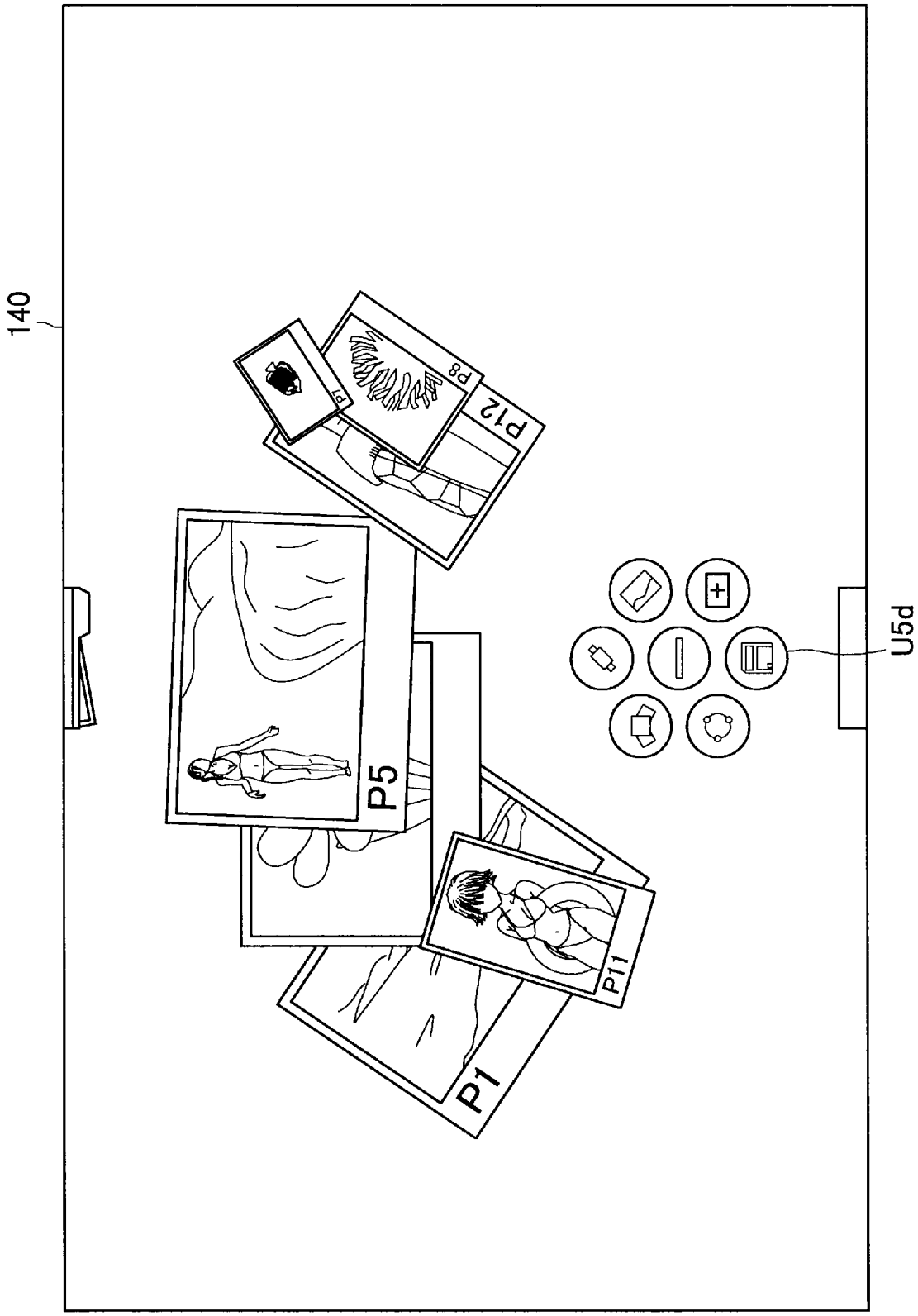
[図14]



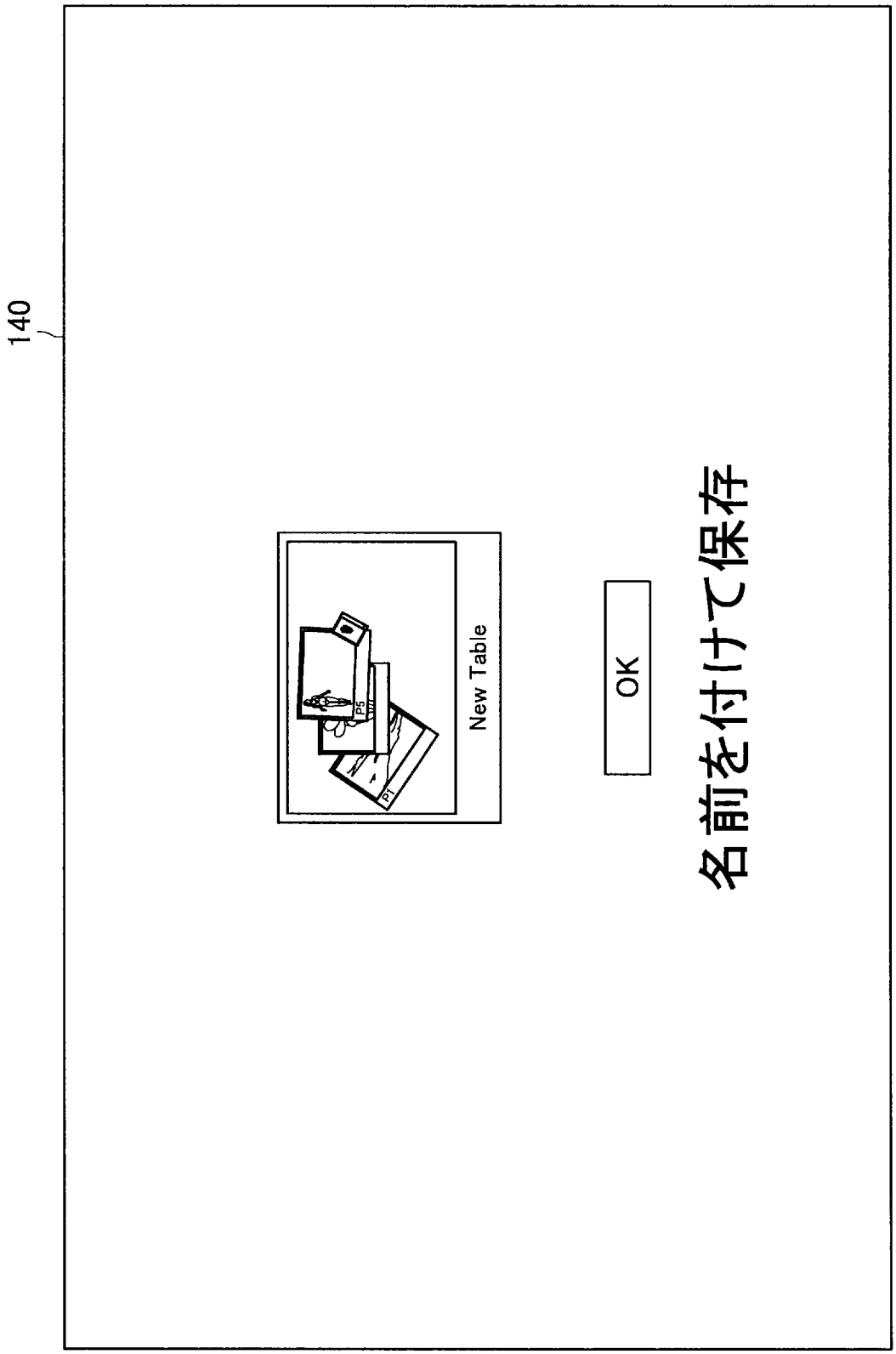
[図15]



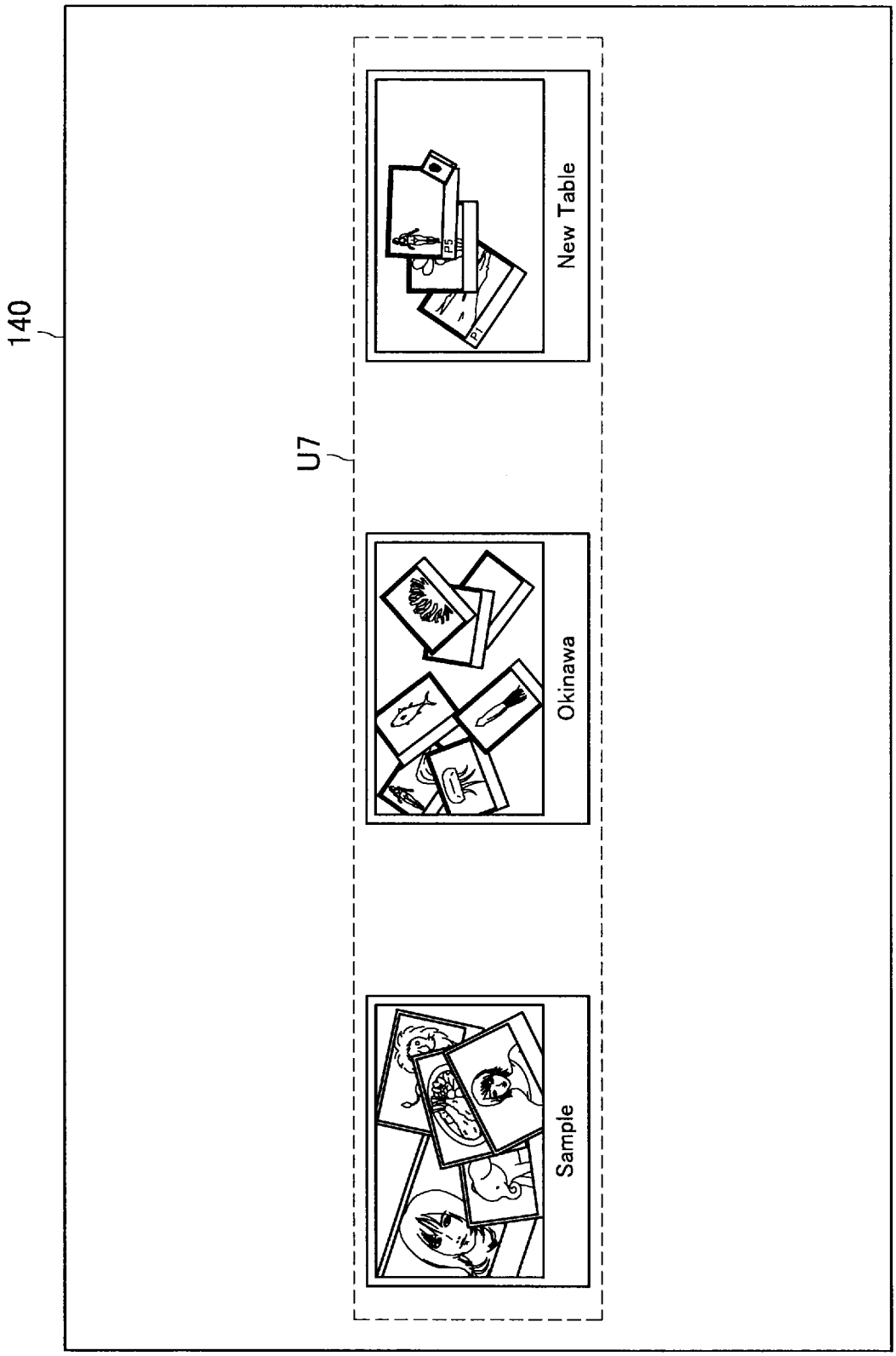
[図16]



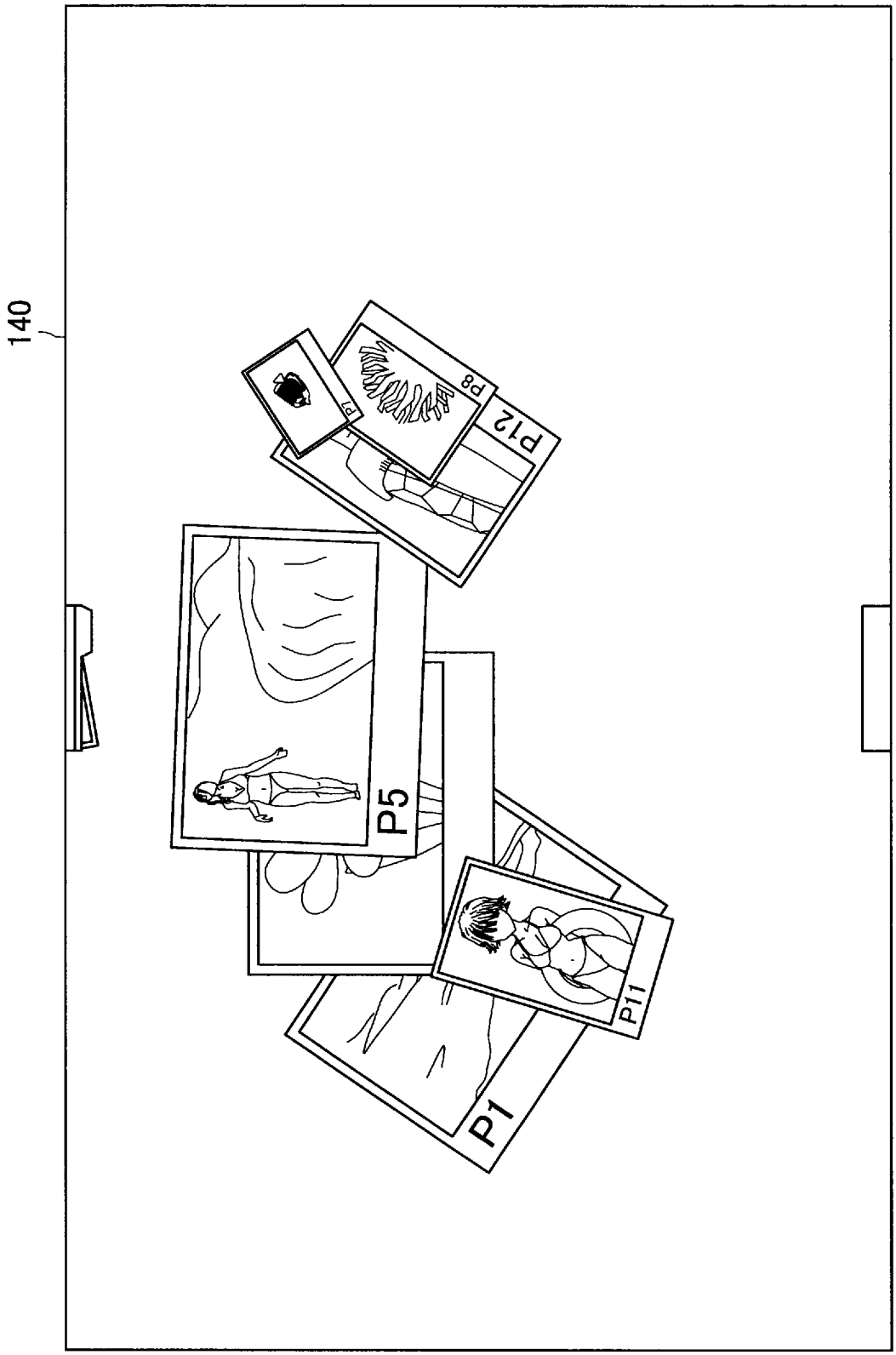
[図17]



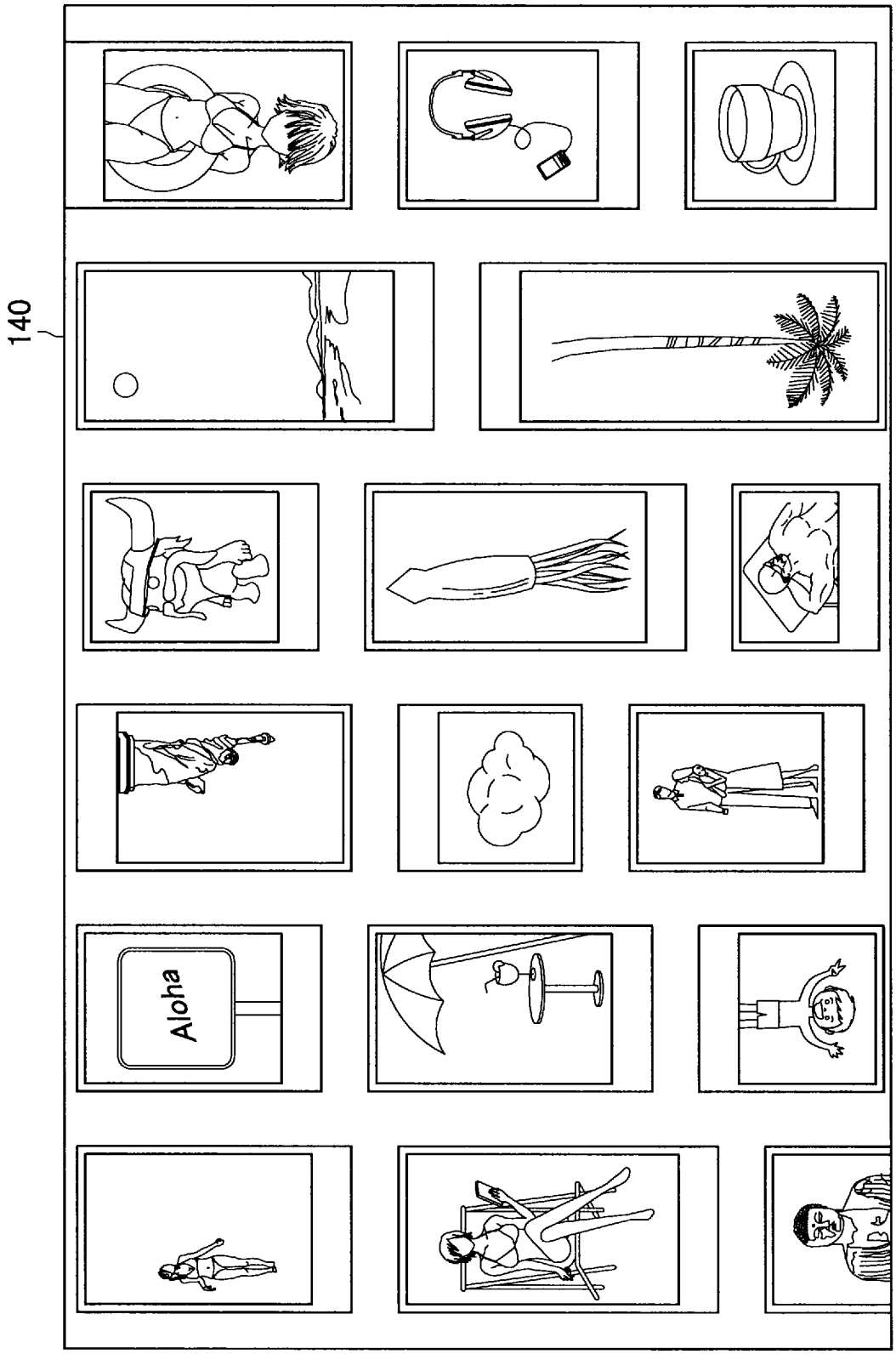
[図18]



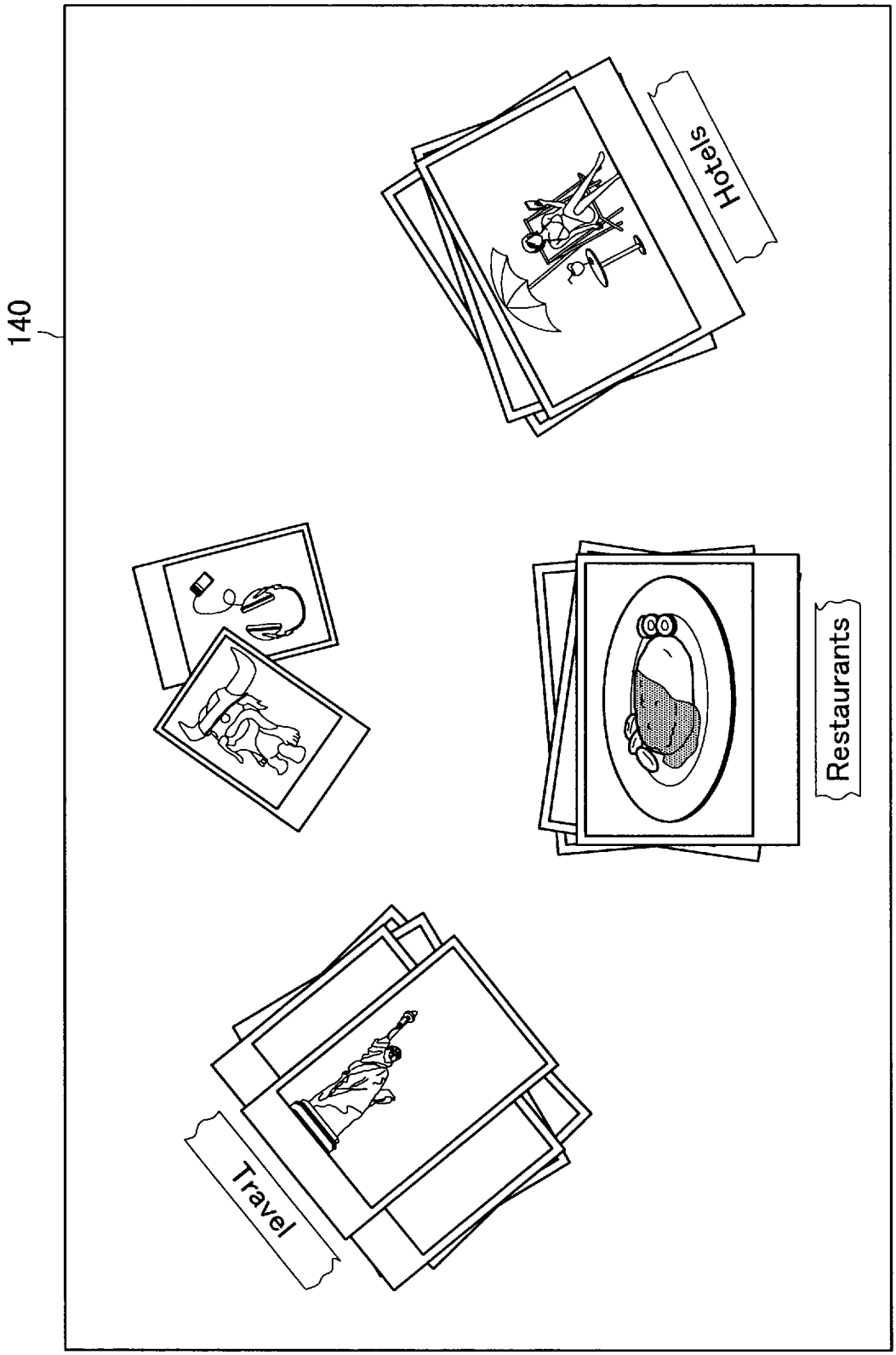
[図19]



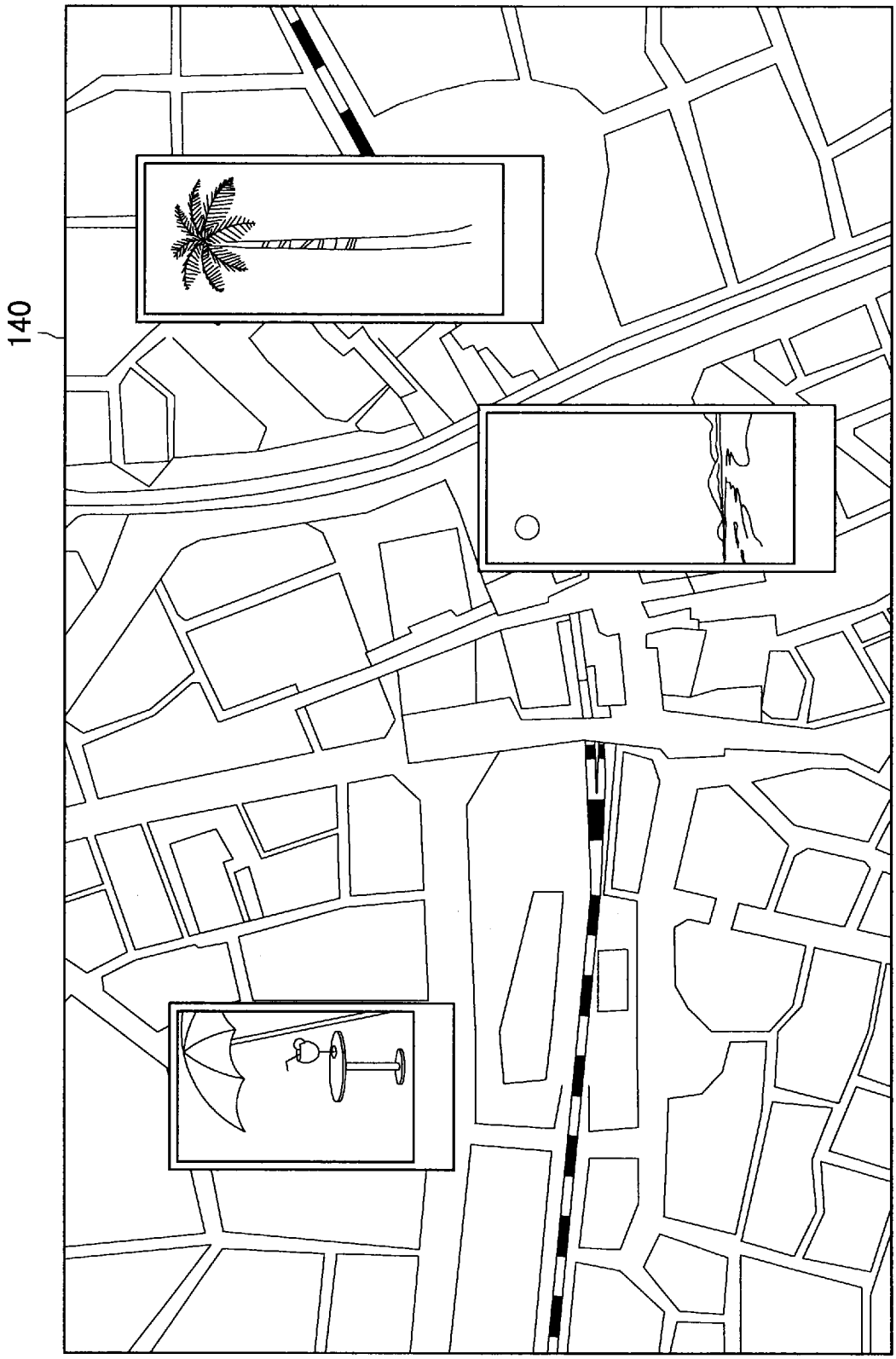
[図20]



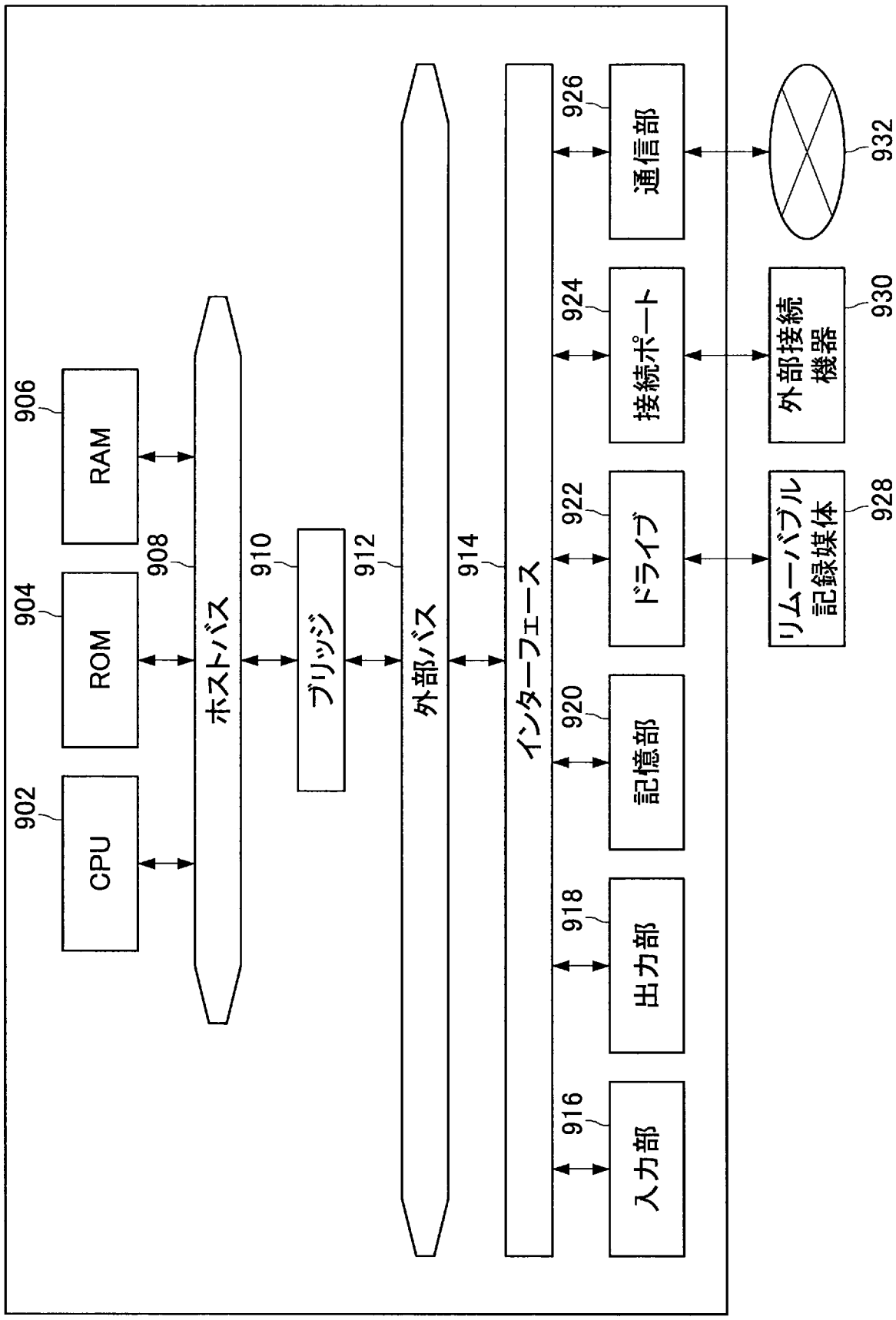
[図21]



[図22]



[図23]


CPU
902
ROM
904
RAM
906
ホストバス
908
ブリッジ
910
外部バス
912
インターフェース
914
入力部
916
出力部
918
記憶部
920
ドライブ
922
接続ポート
924
通信部
926
リムーバブル記録媒体
928
外部接続機器
930
932

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2014/067240

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
G06F3/0482(2013.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
G06F3/0482

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2014
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2014	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2014

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2011-204292 A (NEC Personal Products, Ltd.), 13 October 2011 (13.10.2011), entire text; all drawings (Family: none)	1-7
Y	JP 2002-055753 A (Canon Inc.), 20 February 2002 (20.02.2002), abstract; paragraphs [0021] to [0022]; fig. 6 (Family: none)	1-7
Y	JP 2013-520715 A (Touchtunes Music Corp.), 06 June 2013 (06.06.2013), paragraph [0167]; fig. 24 & US 2011/0283236 A1 & WO 2011/094330 A1 & CN 102770816 A & KR 10-2012-0117876 A	2

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search 01 September, 2014 (01.09.14)	Date of mailing of the international search report 09 September, 2014 (09.09.14)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2014/067240

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2010-238240 A (Sony Corp.), 21 October 2010 (21.10.2010), paragraphs [0023], [0027]; fig. 3, 4 & US 2010/0251181 A1 & EP 2237141 A2 & CN 101853123 A	2

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１４／０６７２４０

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　G06F3/0482(2013.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　G06F3/0482

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１４年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１４年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１４年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	JP 2011-204292 A（ＮＥＣパーソナルプロダクツ株式会社）2011.10.13, 全文, 全図（ファミリーなし）	1-7
Y	JP 2002-055753 A（キヤノン株式会社）2002.02.20, 要約, 段落【００２１】－【００２２】, 図６（ファミリーなし）	1-7

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 ０１．０９．２０１４	国際調査報告の発送日 ０９．０９．２０１４
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ） 郵便番号１００－８９１５ 東京都千代田区霞が関三丁目４番３号	特許庁審査官（権限のある職員）　５Ｅ　３９７９ 円子　英紀 電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３５２１

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	JP 2013-520715 A（タッチチューンズ ミュージック コーポレイション）2013.06.06, 段落【０１６７】, 図２４ & US 2011/0283236 A1 & WO 2011/094330 A1 & CN 102770816 A & KR 10-2012-0117876 A	2
Y	JP 2010-238240 A（ソニー株式会社）2010.10.21, 段落【００２３】, 【００２７】, 図３, ４ & US 2010/0251181 A1 & EP 2237141 A2 & CN 101853123 A	2